SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

SOCCER TOCHIGI

vol.89

平成28年10月27日発行

（公社）栃木県サッカー協会事務局
〒320−0857　宇都宮市鶴田2-2-10
鈴運メンテック㈱ビル2F
TEL 028-688-8411 / FAX 028-688-8400
URL http://www.tfa.or.jp/

contents

2 栃木トヨタカップ第21回県サッカー選手権大会
3 第96回天皇杯全日本サッカー選手権
4 栃木県としての誇りを胸に
5 今シーズンここまでを振り返って／宇都宮フットボールクラブ2016シーズン前半を振り返って
7 第45回全国自治体職員サッカー選手権大会北関東予選会優勝及び第45回全国自治体職員サッカー選手権大会出場について
8 高校連盟より／栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会兼第59回関東高校サッカー大会県予選会結果
9 全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会結果／第95回全国高校サッカー選手権大会栃木大会一次予選会結果
10 第25回栃木県高等学校女子サッカー選手権大会兼第25回全日本高校女子サッカー選手権大会関東地区大会栃木県予選会／関東大会に出場して
11 平成28年度関東高等学校女子サッカー大会の考察
12 第47回全国中学校サッカー大会／第47回関東中学校サッカー大会
13 第4種委員会／バーモントカップ第26回全日本少年フットサル大会栃木県大会
14 第2回関東少年サッカー大会栃木県大会／第6回北関東U-12サッカー大会
15 第2回関東少年サッカー大会／第4回全国シニア（40歳以上）サッカー大会関東地区予選会
16 第15回全国シニア（50歳以上）サッカー大会関東地区予選会／第11回関東シニアサッカー選手権大会（Over60）／キッズからとちぎのサッカーを
17 フットサルB級ライセンスコーチ　増子氏が本県第1号に
18 全国選抜フットサル関東大会　本県チーム、6年ぶり4強／全日本ユース（U-18）栃木大会　佐野日大高、真岡高が熱戦
19 クラスルーツが「県内1周」／全日本女子ユース（U-15）選手権大会　栃木SCレディースが全国へ
20 審判委員長あいさつ／タイトル「イバネマの審判」
22 第2回審判研修会を開催して
23 蔵崎フェスティバルに参加して
24 平成28年度情熱疾走　中国総体に参加して
25 2016JFAフットボールフューチャープログラム（FFP）育成担当インストラクター研修会に参加して
26 関東中学サッカー大会に参加して／8月度県審判トレセンを開催して
28 二級審判員として今考えること
29 技術委員会報告
31 第71回国民体育大会関東ブロック大会サッカー競技開催
32 2016国体チームの活動を振り返って
33 第71回国民体育大会関東ブロック大会総括
34 2016年度賛助会員ご芳名

栃木トヨタカップ
第21回栃木県サッカー選手権大会

※写真　2016年7月31日、8月6日、11日、21日
栃木県グリーンスタジアム

FAIR PLAY PLEASE　フェアプレイを心がけましょう

栃木トヨタカップ
第21回県サッカー選手権大会

記録広報委員会　村上富士夫

第96回天皇杯出場権を競う「栃木トヨタカップ第21回県サッカー選手権大会」（栃木トヨタ自動車特別協賛）が１回戦７月31日、準決勝８月６日、11日、決勝８月２１日の日程で、作新大学（第１種・大学代表）、宇都宮FC（第１種・社会人代表）、ヴェルフェたかはら那須（関東リーグ）、栃木ウーヴァFC（ＪＦＬ）、栃木ＳＣ（Ｊ３）の５チームが出場し県グリーンスタジアムで開催された。

７月31日の１回戦１試合は作新大学が４－１で宇都宮FCを破り準決勝に進んだ。作新大は序盤から主導権を握り後半で４得点を挙げ勝利した。宇都宮FCは相手の強固な守備に苦戦し１点を返すのみで及ばなかった。

１回戦

作新大学

４（０－０，４－１）１

宇都宮FC

８月６日の準決勝１試合は栃木ウーヴァFCが作新大を３－０で破り、決勝進出を決めた。栃木ウーヴァは後半３分、FW若林学の得点で先制。その後、DF岡本洵が２点を挙げ試合を決めた。作新大は格上の相手に得点を決めることができなかった。

準決勝

栃木ウーヴァFC

３（０－０，３－０）０

作新大学

８月１１日の準決勝１試合はヴェルフェたかはら那須が１－０で栃木ＳＣを下し、決勝に進出した。ヴェルフェは序盤から攻勢出て、前半４５分、ＦＷ小野優二が先制点を奪いリード。その後は体を張った守備で１点を守り大金星の勝利。栃木ＳＣは若手主体のチーム構成で臨んだが主導権を握れず最後まで得点できなかった。

準決勝

ヴェルフェたかはら那須

１（１－０，０－０）０

栃木SC

８月21日の決勝は７年連続で同じ顔合わせの対戦で、栃木ウーヴァFCが２－１でヴェルフェたかはら那須を下し、４年連続８度目の優勝を飾った。ウーヴァは前半５分にFW若林学が先制ゴールを挙げ試合の主導権を握った。後半９分にPKで同点に追い付かれたが、同15分にMF内山俊彦の得点で勝ち越した。

優勝したウーヴァは８月27日の「第96回天皇杯全日本サッカー選手権」１回戦、県グリーンスタジアムで山梨県代表の山梨学院大学と対戦。

決勝

栃木ウーヴァFC

２（１－０，１－１）１

ヴェルフェたかはら那須

今回の栃木トヨタカップ第21回栃木県サッカー選手権大会には特別協賛会社の栃木トヨタ自動車株式会社ご協力により、応援アンバサダーとしてAKB48 チーム８ 栃木県代表・本田仁美が就任された。

大会期間中の各試合会場で本田仁美のビデオメッセージが披露され、大会プログラムを購入した方に、応援アンバサダー就任記念の特製ステッカーをプレゼントした。

決勝戦の前座イベントとして、元日本代表の小村徳男さんによる「キッズサッカークリニック」が開催された。

県内の小学３年生（U－9）のキッズたちを対象に実施。ミニゲームを中心に基本技術などの指導を行った。

第96回天皇杯全日本サッカー選手権

記録広報委員会　村上富士夫

第96回天皇杯全日本選手権は８月27日に開幕し、各地で１回戦26試合を行った。

本県代表の栃木ウーヴァFC（JFL）は県グリーンスタジアムで山梨県代表の山梨学院大オリオンズを迎え１－１、PK３－４で敗れた。

栃木ウーヴァFCは圧倒的に攻め込みながらも再三の決定機を生かせなかった。特に後半は開始から栃木ウーヴァの一方的な展開のなかゴールを決めることができず延長へ。延長前半２分にDF阿部琢久哉のゴールで待望の先制点を奪ったが、運動量の低下とともに攻撃の勢いを失い、ロスタイムに痛恨のハンドでPKを与え同点に追い付かれPK戦へ。PK戦では栃木ウーヴァのGK花田力が相手の２人目を止めたが、栃木ウーヴァの２、４人目が相手GKに止められ勝利を逃した。

山梨学院大オリオンズ（山梨）
１（０－０、０－０ 延長１－１、０－０）１
（ＰＫ４－３）
栃木ウーヴァFC

栃木県としての誇りを胸に

栃木ウーヴァフットボールクラブ
三森 綾音

日頃から、栃木県サッカー協会をはじめとする皆さまには当クラブの活動に対し、深いご理解とご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

栃木ウーヴァFCは、現在日本フットボールリーグに所属し、年間30試合を戦っておりますが、リーグの中断期間である８月には、『栃木県代表』として戦う舞台を与えていただきましたので、この場をお借りしてご報告させていただきます。

８月13日に山梨県で行われた第71回国民体育大会関東ブロック大会には、昨年度に引き続き栃木県代表として単独チームで出場させていただきました。初戦の相手は、奇しくも昨年初戦で敗れた群馬県代表との対戦であり、昨年度のリベンジを果たすべく、「打倒群馬県、本戦出場」を必達目標に、練習に取り組み、準備をしてきました。しかし結果は０－３で敗戦。本大会への出場は果たせませんでした。たくさんの方に尽力いただき、期待を背負って挑んだ大会でしたが、目標を達成できなかったことを不甲斐なく思うとともに、今回の経験を今後に活かしていきたいと思います。

また、同時期に行われた第71回栃木トヨタカップでは、今年は予選に栃木SCが加わり、ここ最近とは異なるトーナメントとなりました。作新学院大学との準決勝では、３－０で勝利し決勝戦へ駒を進め、因縁の相手であるヴェルフェたかはら那須と７年連続の決勝戦での対決になりました。昨年度は延長戦の末勝利しましたが、準決勝で栃木SCに勝利した実力もあり、勢いに乗っている相手だけに、「私たちは挑戦者である」と気持ちを新たにして臨みました。前半の早い時間に先制をできたことにより自分たちのペースで試合運びをする時間も多く、ミスから失点を許してしまったものの、２－１で勝利し４年連続優勝、天皇杯への出場権を獲得することができました。

そして迎えた第96回天皇杯全日本サッカー選手権。１回戦の相手は山梨県代表の山梨学院大学オリオンズでした。試合は終始主導権を握ってはいたものの、相手GKのファインセーブもあり、１点がとても遠く、90分では決着がつかずに延長戦へともつれこむ厳しい試合となりました。延長前半に先制しましたが、PKを与えてしまい失点、最終的にはPK（３－４）で敗退してしまいました。両チームとも限界まで全力で戦っていましたが、「勝ち」への気持ちが強かった方が勝利を手にすることができたのかもしれません。

９月10日より再開したリーグ戦もいよいよ終盤です。ここまで栃木県代表としていい結果を残せていませんが、残りの試合も１戦１戦を大切にし、栃木ウーヴァFCの名を栃木県の名を全国に広めていけるよう、日々邁進していまいります。今後とも、ご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

今シーズンここまでを振り返って

ヴェルフェたかはら那須　山本奈

日頃より、栃木県サッカー協会、ホームタウンである矢板市のみなさまをはじめ多くのご支援ご協力をいただき誠にありがとうございます。

チームは　9/12　現在、関東サッカーリーグ１部にて７勝４分５敗でリーグ順位を５位に付けています。リーグの前期終了時までは首位争いをしていただけに後期での失速は悔やまれますが、この経験を必ず来季の飛躍に活かしていきたいと思います。リーグ戦は残り２節、全力で闘い抜きます。

今シーズンのチームスローガンは「共闘共感～全力でサッカーを楽しむ～」と掲げましたが、文字通り、共闘共感の輪が広がり、これまでになくクラブのことを多くのみなさまに注目していただけたシーズンであると実感しております。それを象徴するのが８月11日に行われた栃木トヨタカップ準決勝の栃木SC戦。アマチュアクラブとして普段公式戦では試合をすることのないプロチームとの対戦ということだけでなく、現在も堀田利明監督をはじめ過去に栃木SCに所属していた選手がいる私たちにとっては特別な試合でした。この試合に向けては「待ってろ、Ｊ」と銘打ったポスターを作成し、クラブとしても総動員で機運を高めて参りました。この「待ってろ、Ｊ」には単にＪリーグチームとの対戦という意味だけでなく、この試合をヴェルフェがＪリーグ加盟を目指すための試金石とするという意味も込めました。そして、当日はこれまでにないほどのたくさんのヴェルフェを応援していただいている方々が集まりました。試合は前半終了間際に10小野優二のゴールで先制すると、後半はその１点を必死に守り切り、１－０で勝利。勝利が決まった瞬間のヴェルフェ側のスタンドが一体となった歓喜は忘れることができません。選手だけでなくサポーターの中で泣いている方々もおり、共闘共感のスローガンが体現された瞬間でもありました。この勝利は選手の努力が生んだものであることはもちろんですが、日頃ヴェルフェのことを応援していただいているみなさま、スタンドで応援していたみなさまの想いが選手たちに力を与え、選手・サポーターが一丸となって掴み取った勝利であったと思います。この試合で多くの方々から応援していただき、クラブとしてより成長していかなくてはいけないと思いました。

また、３月にはサッカー振興と地域活性化を目的に整備する「とちぎフットボールセンター」の候補地として、ヴェルフェのホームタウンである矢板市が選定されました。この決定は矢板の子どもたちのため、地域のためにも大きな決定になったのではないかと思います。完成すれば地域のサッカー環境は劇的に変化するはずです。それに対して、試合結果・成績だけでなく、矢板のサッカークラブとしてしっかりと地域に貢献し、「サッカーのまち矢板」の大きな一歩をより盛り上げていきたいと思います。

わたしたちはまだまだ発展途上のクラブではありますが、より多くのみなさまに応援したいと思っていただけるクラブになれるよう努めていきます。栃木県のサッカー関係者のみなさまがヴェルフェたかはら那須の活動や試合結果を少しでも気にかけていただければ幸いです。今後ともヴェルフェたかはら那須をよろしくお願いいたします。

宇都宮フットボールクラブ 2016シーズン前半を振り返って

宇都宮フットボールクラブ監督　石原尚之

宇都宮フットボールクラブは、1967年に宇商クラブとして創設されたクラブで、今年で50年を迎えました。現在は、栃木県社会人サッカーリーグ１部に所属し、関東リーグ昇格を目指して日々のトレーニングに励んでいます。

今シーズンは４月から５月にかけて開催された栃木県知事杯第49回県社会人サッカー大会において４年ぶりの優勝を手にすることができました。また、今大会の優勝により、栃木トヨタカップ第21回栃木県サッカー選手権大会及び第52回全国社会人サッカー選手権大会関東予選への出場権を得るなど、普段とは異なるステージでの試合を経験することができました。

知事杯優勝

天皇杯全日本サッカー選手権大会の予選を兼ねる栃木県サッカー選手権大会には第１回大会以来の出場となりました。この大会の魅力は天皇杯の本大会と同様に異なるカテゴリーのチームとの真剣勝負ができることです。我々も県内リーグに所属する社会人チームの代表として大学代表の作新学院大学に挑みましたが、結果は１－４での敗戦。勝負にこだわった中での敗戦に悔しい思いを抱きながら、県内を代表するチームのひとつとして大会に名を連ねられたことに充実感を得ることができました。また、有料試合にも関わらず多くの皆様にご来場いただき、素晴らしい雰囲気の中で試合をさせていただきましたことに、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

栃木トヨタカップ県サッカー選手権出場

加えて出場しました全国社会人サッカー選手権大会関東予選１回戦は、サンエコ鹿沼自然の森サッカー場にて埼玉県第１代表のACアルマレッザ入間との対戦となりました。結果は１－１のまま延長戦でも決着がつかず、PK戦の末に６－５で勝利することができました。昨年の関東リーグ昇格を争う関東社会人サッカー大会１回戦では東京都第１代表の東京海上日動火災サッカー部にPK戦で敗れるなど、関東レベルの大会で勝ちきる厳しさを経験していただけに、今回の勝利はクラブにとって非常に大きなステップとなりました。続く２回戦は茨城県龍ヶ崎市にあるRKUフットボールフィールドで関東リーグ１部に所属するジョイフル本田つくばFCと対戦し、０－３で敗れましたが、格上チームとの公式戦での対戦は今後クラブが目指すべき大事な道しるべとなりました。

いずれの大会も決して満足いく結果であったとは言えませんが、クラブにとって非常に大きな財産となり、また、再びこの舞台に立ちたいという今後に向けたモチベーションにつながったことと思います。このような機会を与えていただきました大会関係者並びに協会関係者の皆様には改めてお礼申し上げます。

これらの大会を通じて様々なカテゴリーのチームや県外のチームと対戦させていただき、改めてクラブとしてのスタイルを確立すること、共有すること、表現することの大切さを認識することができました。私達のクラブは日頃から「サッカーを楽しむこと」と「試合に勝つこと」のふたつを大きな目標に掲げて活動しています。生涯スポーツとしてサッカーを楽しみながら、より高いレベルを目指すサッカークラブとして今後もしっかりと継続的に活動していきたいとの思いを強くしました。

現在は、就学前の児童を対象にしたキッズクラブや小学生を対象としたサッカースクールを実施するなど、少しずつではありますが地域に根差した活動も行っています。また、OBを中心とした宇都宮FCファミリーがシニアリーグに所属しています。今後も活動の幅を広げ、世代や所属を越えてサッカーの魅力を共有するとともに、サッカーによる交流を通じて地域に貢献していきたいと考えていますので、引き続きご支援・ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

第45回全国自治体職員サッカー選手権大会北関東予選会優勝及び第45回全国自治体職員サッカー選手権大会出場について

栃木県庁蹴球会　主将　青木　哲也

全国自治体職員サッカー選手権大会は、毎年夏に行われており、栃木県予選会上位２チームが出場できる北関東予選会において、上位３チームに入ると全国大会に出場することができます。（北関東予選会には、茨城県、栃木県、群馬県及び山梨県から各２チームの計８チームが出場します。また、今回は45回の記念大会のため、上位５チームが全国大会に出場することができます。）

さて、この自治体職員サッカー選手権大会ですが、読んで字のごとく、各自治体職員でチームが構成される大会となっています。つまり、栃木県庁でいいますと、母体となっている栃木県庁蹴球会で選手登録をせず、他のチームで選手登録している選手も含めて栃木県庁というチームが組まれることになります。そして、まさにそれこそが、この大会の面白みとなっています。

大会に臨むにあたっては、普段の県リーグを共に戦っていない数チームの選手がいることから、各選手の強みを最大限に引き出すような戦い方を心がけています。スピード、テクニック、キック力等に長けた選手のプレーを生かすためには、どのように自分が動くべきか、どのようにみんなでボールを動かすべきか。また、サッカーにミスは付きもの、ミスした後には、いかに早く自分が切り替えるか、いかに早くみんなでカバーするか、ということを常に考え、実践することを意識しています。

今回、栃木県庁は、栃木県予選会を１位で突破し、群馬県太田市で開催された北関東予選会に臨みました。全国大会出場を懸けた初戦、甲斐市役所（山梨県２位）に対し、ツートップの５ゴール（FW押野３点、FW村松２点。）により５対１で勝利。続く準決勝では、伊勢崎市役所（群馬県１位）に対し、DF堀を中心とした堅守による０対０からのPK戦６対５で勝利。優勝を懸けた決勝戦では、昨年の北関東予選会初戦で敗れた日立市役所（茨城県１位）に対し、一進一退の攻防も０対０からのPK戦、GK坂本のPKストップにより５対３で勝利し、北関東予選会初優勝を勝ち取ることができました。また、この優勝により、４年ぶり３回目の全国大会出場の切符を手にすることができました。

全国大会には、45回の記念大会のため48チームが出場し、８月５日から11日まで鹿児島県鹿児島市で開催されました。（例年は、32チームが出場します。）

過去２回の出場時は共に初戦敗退であった栃木県庁にとって、全国大会初勝利を懸けた初戦の２回戦、岩手県の盛岡市役所（東北２位）に対し、MF小倉のゴールにより１対０で勝利。続く３回戦では、新ひだか町役場（北海道４位）に対し、圧倒的に攻めたてるも０対０からのPK戦、GK佐藤のPKストップにより４対３で勝利。メダルを懸けた準々決勝では、昨年の全国大会準優勝チームである東京消防庁（東京都１位）に対し、前半は０対０で凌ぐも後半に３失点し、０対３で破れ、鹿児島での全国大会は幕を閉じました。

栃木県庁は、今回の全国大会でベスト８、そして都道府県庁での出場５チーム中最上位に進出できたとはいえ、まだまだ発展途上のチームです。

これからも日々トレーニングを重ね、再び栃木県の代表となった暁には、更なる結果を残し、栃木県サッカーを盛り上げていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

自治体職員サッカー選手権大会北関東予選会in太田

全国自治体職員サッカー選手権大会in鹿児島

１．高校連盟より

栃高体連サッカー専門部委員長
小田林　宏至

現在、高校連盟は、63校が県高体連サッカー専門部に加盟し、活動しています。

大会は、高体連主催で４～５月に県総体兼関東予選、６月に全国高校総体予選、１～２月に県新人大会を、サッカー協会主催で８月に全国高校サッカー選手権栃木大会一次予選、10～11月に同2次予選、U-18ユースリーグ（４～12月）を実施しています。

ユースリーグは年度を重ねるごとに整備され、現在１～３部制で実施しており、今年度は延べ83チームが参加しています。内訳は、１部が10チーム、２部が10チーム×２グループで、それぞれ２回総当たりで実施し、１チームあたり年間18試合を行っているところです。また、参加校が増えたため、３部は昨年度より、17～18チーム×３グループ１回総当たり方式にして実施しています。選手たちにより多くの試合出場の機会を与えるため、１校から複数チームの参加も認めており、年々盛り上がりを見せてきています。

ここ何年か関東プリンスリーグおよびプレミアリーグに本県代表が参加できない状態が続いています。本年度はプリンス参入戦を勝ち抜き、昇格を果たしたいと切望しています。

県内大会に目を向けてみると、春に県総体兼関東大会予選が行われました。

準決勝戦において真岡高校がさくら清修高校に、矢板中央高校が栃木高校に勝利し、出場権を獲得しました。決勝戦は、真岡高校が矢板中央高校に勝利し、両校とも千葉県で開催された第59回関東高校サッカー大会出場しました。

矢板中央高校は、関東本大会においても粘り強い戦いをし、各都県の２位チームで争うＢグループで決勝まで駒を進めました。

６月に行われた全国高校総体予選においては、準決勝第一試合で、真岡高校が前半から得点を重ね、宇短大附属高校に５対０で勝利しました。続く第二試合は、矢板中央高校と佐野日大高校が対戦し、３対０で矢板中央高校が勝利し、決勝戦に進みました。決勝は関東予選と同じカードとなりましたが、２対０で矢板中央高校が雪辱を果たし、インターハイ出場を決めました。

また、８月には、全国高校サッカー選手権栃木大会一次予選会が行われ、16校が勝ち抜き、二次予選進出を決めました。これで、インターハイ予選ベスト8の推薦出場の8校と合わせ、計24校が出揃いました。

各校とも夏休み遠征や合宿など、各大会に向けて強化しているところです。

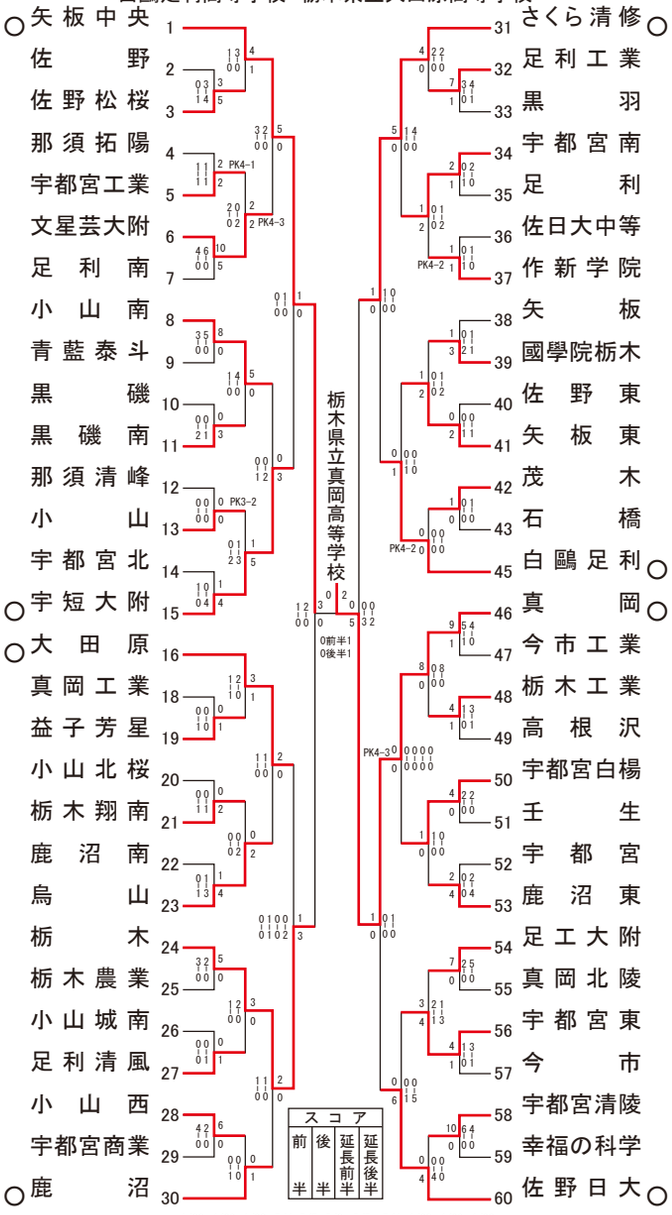
これから日々の練習に励み、上位大会で活躍できるよう、頑張っています。

こうした中で、全国でも活躍できるチームが育ち、また、日本を代表するような選手が出てくることを期待したいと思います。

平成28年度栃木県高等学校総合体育大会サッカー大会兼第59回関東高校サッカー大会県予選会 結果

平成28年４月23・29・30日　５月４・７・８日

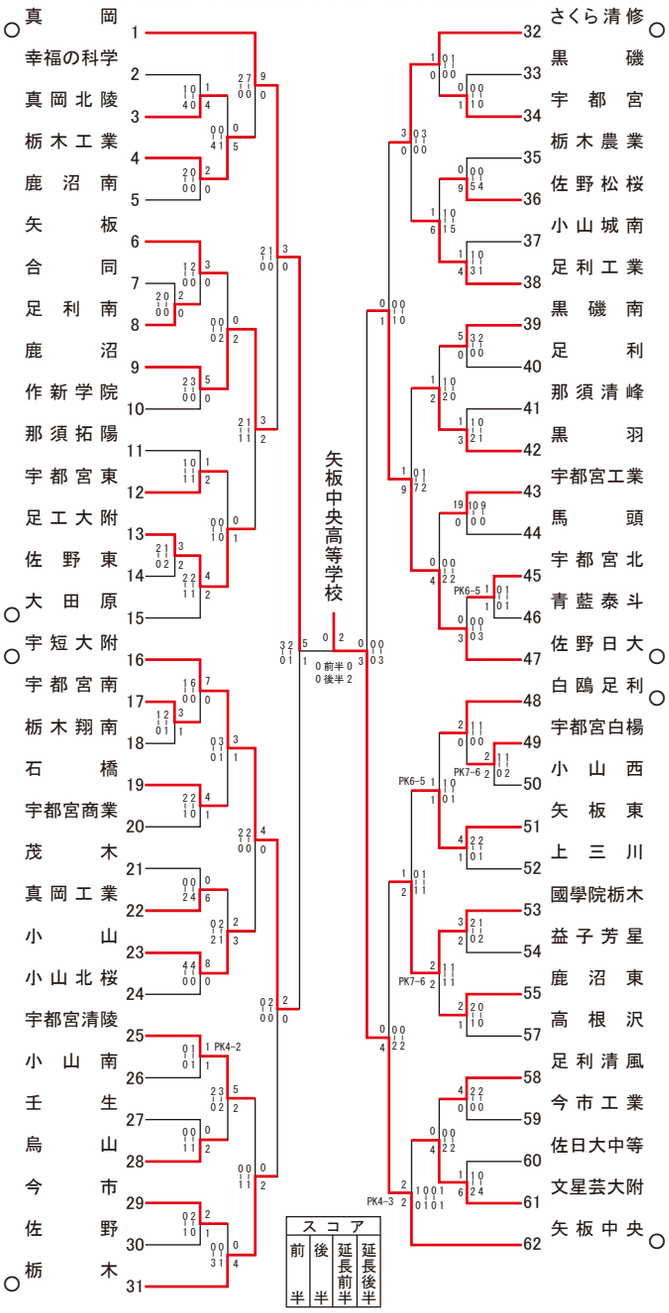
優　勝：栃木県立真岡高等学校
（7年ぶり12度目の優勝　3年ぶり24度目の関東大会出場）
準決勝：矢板中央高等学校
（5年連続11度目の関東大会出場）
第３位：栃木県立さくら清修高等学校　栃木県立栃木高等学校
第５位：佐野日本大学高等学校　宇都宮短期大学附属高等学校
白鷗足利高等学校　栃木県立大田原高等学校



平成28年度　全国高等学校総合体育大会サッカー競技県予選会　結果

平成28年５月28・29日・６月５・11・12・18・19日

優　勝：矢板中央高等学校
（２年ぶり７度目の優勝　２年ぶり７度目の全国大会出場）
準優勝：栃木県立真岡高等学校
第３位：佐野日本大学高等学校　宇都宮短期大学附属高等学校
第５位：國學院栃木高等学校　栃木県立鹿沼高等学校
栃木県立さくら清修高等学校　栃木県立栃木高等学校

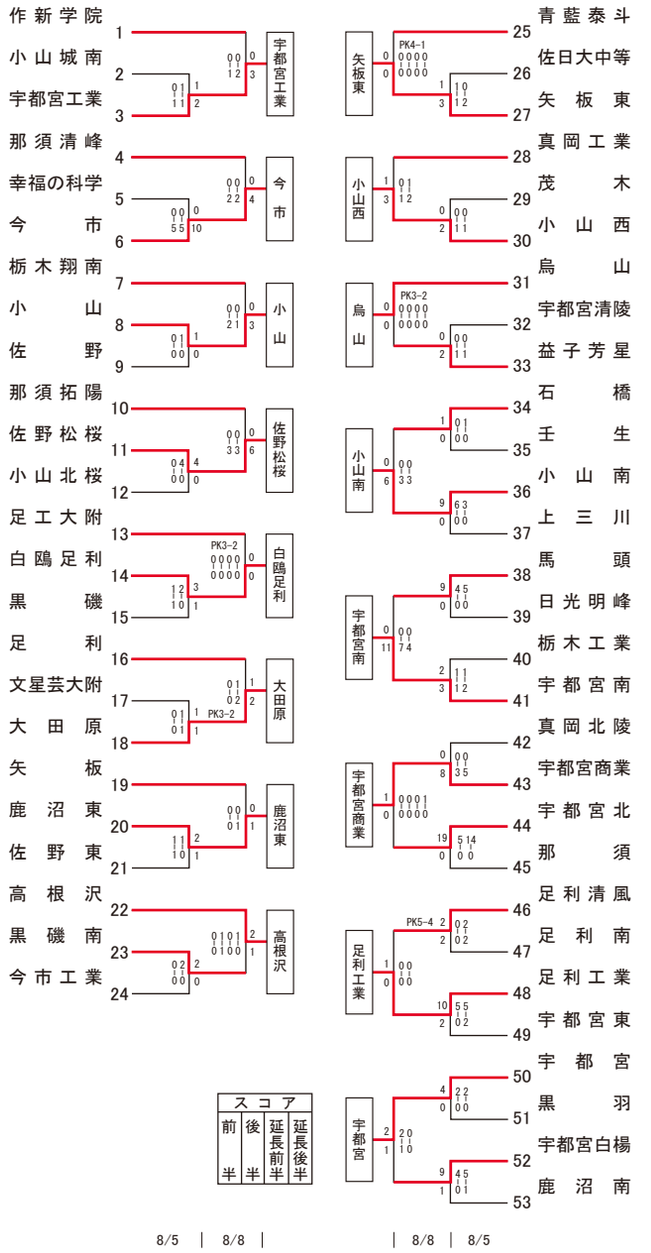


平成28年度 第95回 全国高校サッカー選手権大会栃木大会一次予選会 結果

平成28年８月5･8日

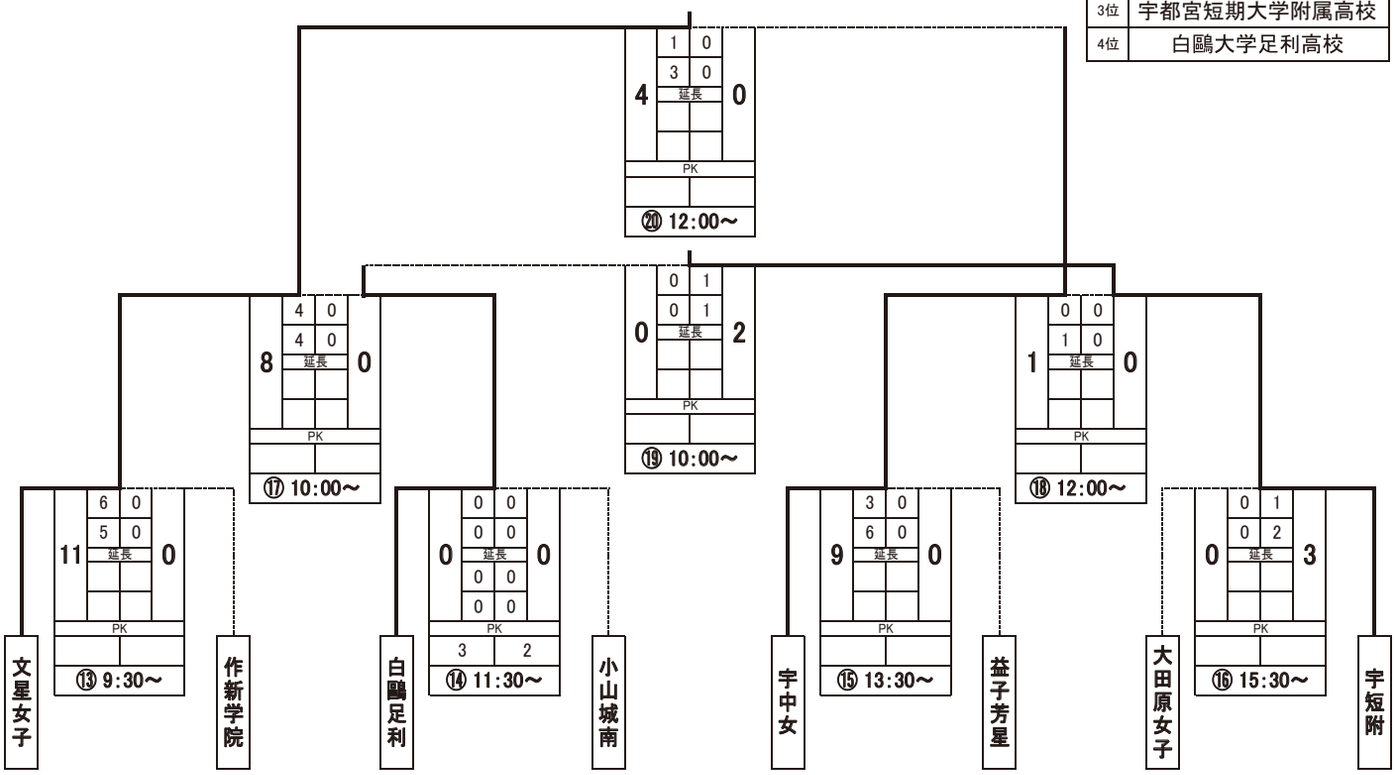
A　栃木SC宇都宮Ｆ　B　河内総合多目的　C　鹿沼市サンエコ
D　日光市丸山公園　E　栃木市総合　F　那須塩原市青木Ａ
G　那須塩原市青木Ｃ　H　さくらスタジアム　I　栃木県グリスタ

試合時間：1　9:30　2　11:20　3　13:10



第25回栃木県高等学校女子サッカー選手権大会 兼 第25回全日本高校女子サッカー選手権大会関東地区大会栃木県予選会

優勝	宇都宮文星女子高校
2位	宇都宮中央女子高校
3位	宇都宮短期大学附属高校
4位	白鷗大学足利高校



H28年度　関東大会に出場して

栃木県立真岡高等学校サッカー部
監督　川上栄二

平成28年度第59回関東大会に栃木県第一代表として参加してきた。本校の関東大会出場は今回で24回目になる。また関東予選での優勝は実に７年ぶりとなる。

試合は初戦で地元千葉県の第一代表である八千代高校に延長戦の末０－１で惜敗した。惜敗という理由は、自らの、しかも連携ミスによるものであったからである。強風でしかも暑熱環境下での苦しい試合でこそ、あってはならないミスである。指導者としても選手たちにとってもまだまだ追求の足りないところを実感したワンプレーであった。しかし、試合内容全体を通じては及第点をつけることができるのではないかと思う。決して一方的な展開ではなく、相手の攻撃コンセプトを理解し、しっかりとした守備からゲームを組み立て、サイドを中心としながらもフィニッシュまで持っていくことはできていた。決定機もほぼ互角で、後半やや押し込まれる時間帯はあったものの、堅守からの攻撃という点では遜色ない戦いができていた。

県全体の課題でもあるが、個々のテクニック発揮の部分での課題はまだまだ多い。シンプルなしかも精度のあるプレーの積み上げが重要であることを実感した。日々のトレーニングで口酸っぱく言っているところであるが、まだまだその追求は甘い。指導者の意識の中での積み上げではなく、本当の意味での選手でレベルでの意識化、日常化が必要であると考える。現代日本の育成環境下ではインテンシティーがキーワードとなっているが、その本当の意味を日常のトレーニングに導入できる個やチームが今後間違いなく躍進していくであろう。

今大会の結果を踏まえ、さらに機能的なトレーニングとは何か、どのようなチーム作りが必要かを工夫し、より高みを目指していきたい。

平成28年度関東高等学校女子サッカー大会の考察

宇都宮文星女子高等学校サッカー部
監督　鈴木　秀明

①リベンジからのスタート

11年ぶりに県高校新人戦の優勝を逃し、本大会への栃木県予選は、第二シードからのスタートになった。リベンジを誓ったこの大会のスターティングメンバーは、新人戦のメンバーに４人の新入生を加えた、１年生４人、２年生５人、３年生２人と言う構成で、若い選手が多く名を連ねた。大会の序盤こそ大差で勝利したものの、準決勝と決勝は１−０と言う僅差での勝利であった。シュート数やポゼッション率では、大きく上回るものの、決定機が少なく、しかもチャンスに決め切れない。逆にカウンターを受けて冷や冷やする、そんな戦いであった。いくら有望な新入生でも、数週間前までは中学生で、中には中学三年の夏で引退し、半年以上も実戦から遠ざかっている者もいた。一か月後に迫る関東大会に対し、不安を残すスタートとなった。

②決断とスカウティングの準備期間

代表権を獲得し、すぐに関東大会への準備を始めた。四週間のうち、最初の二週間はスタイルを実践させるために使った。

まずは、自分達がどのような戦い方をするかのスタイルを決めた。自分達には二つの選択肢があった。一つは自分達が望む、ボールを支配し、ゲームをコントロールしながら勝利を目指すアクションサッカー。もう一つは勝利を優先し、リスクを逃れ、守りを重視するリアクションサッカーの二つである。

県予選の後に大学生と三試合テストマッチを行い、大会での戦い方を決める事にした。関東大会で勝つには、大学生と互角以上に戦える必要があるからである。結果としては、どの試合も望むような試合が出来ず、苦渋の選択ではあるが、関東大会では勝利を優先しリスクを回避し守備的に戦うリアクションに徹する戦いを選んだ。

次の二週間は相手の対策を立てスタイル通りの戦いを実践する為の強化をした。対戦相手は優勝候補（関東大会準優勝。インターハイベスト８）の群馬県代表になったので、スカウティングをし、その特徴と対策を生徒に理解させた。相手の攻撃のストロングポイントとそれに対する対応の仕方。ボールを奪う為のポジショニング。奪った後のボールの動かし方からシュートまでの流れなどを理解させ実践させるために、ミーティングとトレーニングを行った。ミーティングはビデオ映像を使ったり、講義をしたりした。女子選手の長所の一つが、言われた事を忠実にこなす能力が高い事なので、ミーティングは、チーム作りにも選手育成にも効果がある。

③想定外と想定内の本大会

そして本大会。ゲームプランとしては、立ち上がりの猛攻をしのぎ、少しずつ自分達のペースをつかみ、少ないチャンスで得点し、我慢し逃げ切る。そんなプランを想定しピッチに送り出した。

開始間も無く（公式記録では一分）ミスから失点。その後に落ち着く間もなく二失点目を喫し、ゲームプランは飛んだ。このまま大量失点の予感さえ感じられた。しかし、選手達は逆に開き直り、堂々とプレーをし始める。相手の攻撃も練習通りに跳ね返し、ウイークポイントからボールを奪い、シュートシーンを作ることができるようになった。そして、前半終了間際に、これも練習通りのセットプレーから得点が生まれ、１−２で前半を終えた。

後半は、まさにプラン通りの展開で、相手の攻撃をしのぎ、カウンターを仕掛け、チャンスを作ることが出来ていた。しかし、若い選手が多い為、肉体

的にも精神的にもタフさに欠け、徐々にスタミナを奪われた。そして、終了間際に追加点を奪われ１−３の敗戦となった。

④現在の傾向と今後の動向　現在の高校のトップレベルでは、二つの流れがあると思われる。一つは女子選手の技術の高さを生かし、ポゼッション率を高める方法と、もう一つは女子選手のフィジカルの差を活かし、ダイレクトプレーに徹する方法である。

前者は常に良いポジション取りをし、スペースを作り使う方法。確実にボールを動かすことにより、一度もボールを奪うチャンスを作らせずにシュートに持ち込むことが出来たりする。関東大会のベスト４以降の試合でも、ボールを奪うチャンスどころか、ボール保持者にチャージするチャンスさえ作らせずに得点することもある。

後者は女子選手のフィジカルの差と浮き球の処理の不味さを利用する方法。女子選手の中には男子顔負けの能力を持つ選手がいて、スピード、高さ、強さで他を圧倒する。そのような選手を最前線に配置し、ロングボールを放り込む。ヘディングの苦手な選手が多い女子チームには効果的な攻撃である。

このような傾向がある高校女子サッカー界に対し、今後、我がチームを含めた栃木県の選手達が関東大会や全国大会で活躍し結果を残すためにはどのようにするべきか。守備では、それらの攻撃に対応できるチームとしての完成度が求められると思う。どのような攻撃に対してもチームで守れるようになる事である。そして、攻撃に関しては、それぞれのチームの特徴や抱えた選手の質により独自の方法を作り出していくことが大切であると実感した。

終わりに、今大会に出場するにあたりご協力頂いた、栃木県女子サッカー連盟の井上様、小野瀬様をはじめ、多くの関係者に感謝を申し上げたい。本当にありがとうございました。

第47回全国中学校サッカー大会（富山県富山市）第47回関東中学校サッカー大会（埼玉県さいたま市）に出場して

さくら市立氏家中学校　綱川　和敏

《感謝と御礼》

平成28年度（2016年）夏季、中学校総合体育大会において、数々の激戦を勝ち抜き、関東大会、そして全国大会に出場することができました。これもいままで多くの方々の御支援、御声援のおかげだと思います。本当にありがとうございました。栃木県サッカー協会技術委員会（３種）及び栃木県中学校体育連盟サッカー専門部の皆様には大会前、及び大会中の技術的なサポートをいただき、大変感謝しています。

本校としては、13年ぶりの全国大会出場になります。今年、このような素晴らしい結果を残すことができたのは、選手達の努力はもとより、いつも支えて下さった保護者の皆様や共に切磋琢磨した先輩方と築きあげてきた氏家中学校サッカー部への思いがあったおかげであると思います。

《今年度の氏家中学校サッカー部》

今年度の氏家中学校は県新人戦で準優勝、県春季大会で優勝と、７月に開かれる総体に向けて着実に力をつけていくことができました。毎日の練習では、基礎的なメニューから実践的なメニューまで選手同士が声をかけ合って集中して取り組んでいます。部員数が70人を越える大人数なので、その中でお互いに切磋琢磨して技術を磨き合いながら活動することができています。

また、氏家中学校は高円宮杯U−15サッカーリーグに参加しています。氏家中学校はU−15リーグの１部に所属しており、対戦相手が栃木県のクラブチームということで、リーグ戦のどの試合もチャレンジ精神をもって全力で試合に臨んでいます。常に高いレベルで試合ができる環境が選手達をたくましく成長させていったのではないかと感じています。

≪関東・全国大会での経験≫

今年度氏家中学校は県大会で優勝し、関東大会を経て全国大会に出場することができました。成績は全国ベスト８という氏家中サッカー部でも初の快挙を成し遂げることができました。その結果に至るまでにはけして楽なものばかりではありませんでした。

関東大会１回戦。対戦相手は茨城県代表勝田第二中学校でした。関東大会初戦での緊張からか、思う

ようなサッカーができず、大変苦しみました。PK戦の末、辛くも２回戦に進出するも課題の残る試合となりました。翌日の２回戦では、群馬県代表吉岡中学校と対戦しました。この試合に勝利すれば全国大会出場が決定すると、チーム全員強い決意をもって試合に臨みました。ところが試合開始１分で失点。チーム全体が慌ててしまった中、吉岡中に追加点を取られてしまいました。その後、反撃を試みましたが、１対２で敗北してしまいました。試合後の選手たちは落胆し、この後行われる敗者戦のために気持ちをなかなか切り替えられませんでした。監督としてチームのやる気を取り戻すのに大変苦労しました。気持ちの切り替えがつかないまま臨んだ敗者戦では、駿台学園中学校に敗北してしまいました。

代表決定戦を明日に控え、チームの雰囲気は沈んでいました。あと一勝ができそうでなかなかできない本当に苦しい思いを選手も監督も経験しました。宿舎に帰り、チーム全体でミーティングを開き、もう一度「全国に行こう！」心を１つに話し合いをました。

そして、迎えた大会三日目。相手は千葉県代表習志野市立第一中学校でした。チーム全体が一日目、二日目と見違えるような動きを見せ、３対０で全国大会出場を決めました。チーム全員で苦しかった三日間を耐えきり、全国への切符を手に入れた喜びを分かち合いました。全国大会では関東大会で出し切れなかった実力をいかんなく発揮し、ベスト８になることができました。

≪まとめにかえて≫

今回、全国大会まで経験させていただき、多くのチームの戦術やチームの雰囲気などを目にすることができました。各チームともそれぞれの良さがあり、感心させられることが多々ありました。その中でもすべてのチームに共通していることとして、どのチームも全国大会で勝つための様々な準備ができているということです。選手たちの目指す目標が明確であることは当然のこと、チームスタッフや、保護者のサポートも本当に素晴らしかったです。全国大会まで勝ち進むためには様々な準備が必要であると感じました。

第４種委員会

◇高瀬利明委員長あいさつ

４種委員会委員長の高瀬です。

日ごろから、県協会関係者様、チーム関係者様そして保護者の皆様には、大変お世話になっております。

さて、昨年度から、全日本少年サッカー大会が12月に行われ、地域リーグ戦がその予選としてスタートいたしました。関係各位には、会場の確保や自地域でのカップ戦の時季変更など大変ご迷惑をおかけいたしました。とともに本当に感謝いたします。

昨年度リーグ戦を実施したわけですが、課題も見えました。各チームには目指すところやチームのコンセプトがあります。全チームが成績重視で選手を育成しているわけではありません。したがって、点差の開いたゲームが多くみられました。果たして少年の段階で大差の付くゲームがお互いのためになるのかが議論されました。そこで今年度から、昨年度の新人大会の成績を考慮し、トップリーグを組織いたしました。実力のあるチームもサッカーを始めたばかりの子が多いチームにも、均衡した厳しい試合で切磋琢磨することができるわけです。

この取り組みも、試行の段階です。多くの皆さんのご意見をいただきながら、より良い大会に、より良い選手の育成に尽力していきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

バーモントカップ第26回全日本少年フットサル大会栃木県大会

７月９・10日の２日間、大田原市県北体育館などで栃木県大会が行われました。48チームが参加し熱戦が繰り広げられました。二日目の準決勝リーグに勝ち上がったのは、FC氏家（塩谷南那須）細谷SC（宇河）ともぞうSC（宇河）プラウド栃木FC（北那須）亀山SC（芳賀）国本JSC（宇河）の６

チームでした。決勝は、ともぞうSC対国本JSCとの宇河決戦となり、ともぞうSCが力を存分に発揮し優勝し、全国への切符を手にしました。

＜ 優勝 ともぞうSC ＞

＜ 準優勝 国本JSC ＞

第２回関東少年サッカー大会栃木県大会

６月４日、６月５日・12日の３日間、大田原市の美原運動公園陸上競技場などで、関東大会への切符をかけて64チームが激突しました。

大会で決勝に進出したのは、宇河区のTEAMリフレSCと宇河地区のともぞうSCでした。熱い攻防が繰り広げられましたが、TEAMリフレSCが底力を発揮し、初優勝しました。

＜ 優勝　TEAMリフレSC ＞

＜ 準優勝 ともぞうSC ＞

＜ 第３位 ヴェルフェU-12 ＞

第６回北関東U-12サッカー大会

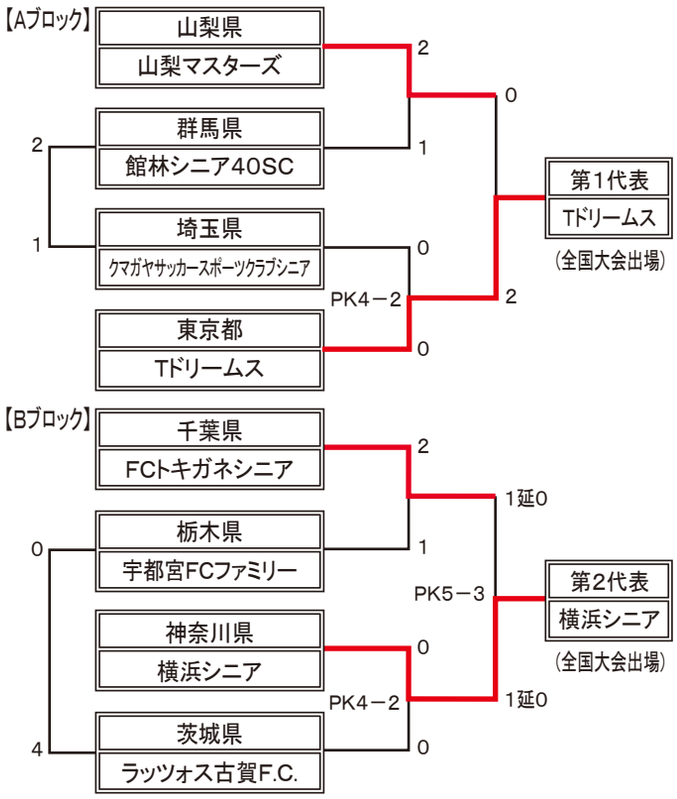
８月６・７日群馬県にて北関東大会が開催されました。本県からは、FCアネーロ宇都宮U-12（宇河）、栃木SCジュニア（宇河）、FC氏家（塩谷南那須）、御厨FC（両毛）が参加しました。

１位パートで栃木SCジュニアが見事優勝、FC氏家が準優勝、FCアネーロ宇都宮U-12が３位栃木県が上位を占めました。御厨U-12は２位パートで健闘しました。

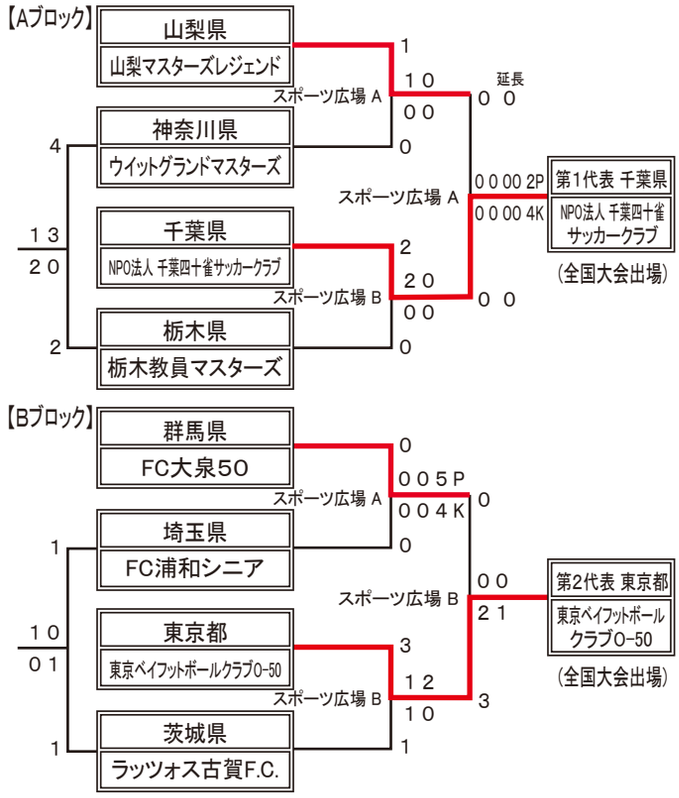
第２回関東少年サッカー大会

８月20・21日、群馬県にて大会が行われました。栃木県からは、TEAMリフレSC、ともぞうSC、ヴェルフェU-12の３チームが参加しました。栃木県勢はTEAMリフレSCが決勝トーナメントに進出し。第３位に輝きました。ともぞうSC、ヴェルフェU-12は予選リーグで奮闘しましたが敗退しました。

2016年度 第４回全国シニア（40歳以上）サッカー大会関東地区予選会<結果>



2016年度 第15回全国シニア（50歳以上）サッカー大会関東地区予選会<トーナメント結果>



2016第11回関東シニアサッカー選手権大会（Over60）戦績表

Aブロック	埼玉県	千葉県	群馬県	栃木県	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
埼玉県 埼玉シニア60		○ 4−0	○ 5−0	○ 2−0	3	0	0	9	11	0	+11	1
千葉県 アスレチッククラブちば	● 0−4		△ 1−1	● 0−1	0	1	2	1	1	6	−5	3
群馬県 群馬FC60（西毛）	● 0−5	△ 1−1		● 2−3	0	1	2	1	3	9	−6	4
栃木県 栃木大昭サッカークラブ	● 0−2	○ 1−0	○ 3−2		2	0	1	6	4	4	±0	2

Bブロック	埼玉県	千葉県	群馬県	栃木県	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失差	順位
東京都 Lazos2011		○ 1−0	○ 6−0	○ 2−0	3	0	0	9	9	0	+9	1
山梨県 甲斐市シニアサッカークラブ	● 0−1		● 0−4	● 1−2	0	0	3	0	1	7	−6	4
神奈川県 茅ヶ崎FCえぼし	● 0−6	○ 4−0		● 1−2	1	0	2	3	5	8	−3	3
茨城県 日立FC	● 0−2	○ 2−1	○ 2−1		2	0	1	6	4	4	±0	2

優勝	(埼玉県)埼玉シニア60
準優勝	(東京都)Lazos2011

Aブロック1位	vs	Bブロック1位
埼玉シニア60	2 ー 1	Lazos2011

キッズからとちぎのサッカーを ～底辺拡大への取組み～

県キッズ委員　大澤　寛之

◇年代を超えた関わり

キッズの取り組みには底辺の拡大があります。前回は北那須地区でのキッズ年代のサッカーの活動について書かせていただきました。

地区でキッズフェスティバルを行い、子供たちと保護者の皆さんにサッカーの楽しさなどを体験する機会を作る活動と、キッズアカデミーなどの地区での取り組みを行っています。今年も６月に那須清峰高校サッカー部のみなさんとフェスティバルを行いました。今回は高校生と事前に時間をとり、キッズ年代の子ども達との接し方の講義やトレーニングなどを行い、当日は120％で関わってくれました。フェスティバルに来てくれた子ども達もですが、高校生も『楽しかった』『また誘ってください』とお互いに笑顔で楽しく実施することが出来ました。最後は肩車をしてもらう子もいて全員で写真撮影をして終了しました。このような年代を超えた関わりも、栃木県のサッカーの発展には欠かせないと思います。これからも積極的に関わり合っていきましょう。

2016.6 北那須キッズフェスティバル

◇キッズリーダー講習会の開催

さて、今回は普及の部分で重要なキッズの指導者養成について、ふれたいと思います。

その前に少し話はそれますが、自分の話をしたいと思います。私が指導者の道に進んだのは息子がサッカーを始めたのがきっかけでした。私にサッカーをしていた経験があったので、最初はチームのコーチに教わりながら、子ども達と練習をしているうちに練習を任されるようになり、下の年代のコーチとしてベンチに入るのに、資格を取ることになりました。講習会では同じような境遇のお父さんも多く、とても勉強になりました。今思えば自己流で教えるのではなく、わかりやすい指導法を学ぶことでようやく指導者のスタートラインに立てたのだと思います。と偉そうに言っていますが、まだまだ勉強中です。

同じように自分の子どもに教えることがきっかけでサッカーの指導者になる人が多いのではないでしょうか？

キッズの指導者は子どもが、いちばん最初にサッカーを教わる人です。初めのうちだからあまり指導経験がなくても大丈夫と軽く考えられがちですが、本当はとても重要なポジションです。なぜならサッカーを好きになるのもそうでなくなるのも最初に出会う指導者が肝心だからです。

そんな重要な役割ですが、お父さん・お母さんがそこに関わることが多いのも現状です。チームにカテゴリーごとの指導者がいないため、自分と同様にサッカー経験のある人などが駆り出されて、そして指導の知識がないまま任されて苦労しているのではないでしょうか。

そこで最初の指導者の為にキッズリーダー講習会があります。キッズ向けの練習やキッズ年代との関わり方などの講義がある講習会です。

キッズ年代の指導者はもちろんですが保護者の皆様にも受けていただきたい内容です

2015. 12　キッズリーダーU-10青木

サッカーの講習会なのでサッカー経験者じゃないからと、不安になってしまいそうですが安心してください。キッズリーダー講習会は、サッカーの経験はなくても十分参加できます。実技ではサッカーの要素を取り入れながらの動きづくりやボールを使って遊びながら学びます。そのためサッカー経験がなくでも心配ありません。講義ではサッカーを通したこれからの子ども達との関わり方などを学びます。保護者の方も、一緒に学ぶことで子供たちのベストサポーターになれますので、キッズリーダー講習会に気軽に参加していただきたいです。

昨年度は県内の地区でU-６（両毛）・U-８（芳賀）・U-10（北那須）で開催しました。キッズリーダー講習会はリフレッシュポイントも付くので芳賀地区でD級リフレッシュとしても開催しました。

私も今年度からこのキッズリーダー講習会を開催出来る、栃木で17番目のインストラクターとなりました。まだ新人で勉強中ではありますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。まだ全地区にインストラクターがいませんが、各地区で身近に講習会が出来るようにしていきたいと思います。キッズに関わる指導者がどんどん増えていくことが、県内のサッカーのレベルアップにつながることだと思います。講習会がある際にはお気軽に参加をお願いします。

私たち県協会キッズ委員会では、いろいろな場面でキッズ年代の指導の大切さを発信していきますので、関心がある指導者の皆さんは是非興味をもっていただければと思います。

フットサルＢ級コーチライセンス
増子氏が本県第１号に

JFAが2008年につくったフットサル指導者資格。資格制度が始まった当初はＣ級コーチのライセンス取得の養成講習会のみが実施されていきましたが、11年にＢ級コーチライセンス取得のための講習会が開かれ、今年、本県で初めて那須塩原市の増子明男さん（44）がＢ級を取得しました。取得しての感想をうかがいました。

４、５月に大阪府内でそれぞれ１週間行われた養成講習会に参加し、９月１日からその指導者資格が有効となりました。参加者は全国から集まった約20人。サッカーの選手だったり、フットサルの選手兼指導者だったり、と、顔ぶれではさまざまでした。

少年サッカーの指導者をしていますが、選手たちによいメニューを提供しようと２年前から受講のア

プローチを始め、今回、順番が巡ってきました。講習内容はすべてが新鮮で、聞くこと、見ることすべてが勉強になりました。フットサルは専門用語からサッカーと違います。マークの付き方や１対１についても、サッカーとの相違点に驚きました。

養成講座を受けた２週間は、朝８時15分に講義が始まり、昼休みを挟んで夜10時くらいまで続くハードなものでしたが、とても充実したものになりました。これからは、この資格取得で得た知識や経験をもとに、栃木県のフットサル振興にかかわっていければと思っています。

▲増子さん（右）と木暮フットサル日本代表前監督

《メモ》ましこ・あきお　那須塩原市出身。サッカーの現役時代はMF。宇都宮学園高－三菱自動車－プリマハム土浦－揚茜クラブ。サッカーのＢ級コーチライセンスも持つ。現在は大田原市内で３。４種対象のエトスサッカースクール、ＦＣガナドールを主宰する。

全国選抜フットサル関東大会
本県チーム、６年ぶり４強

■１回戦／栃木県選抜２－１茨城県選抜■準決勝／栃木県選抜１－７千葉県選抜

都道府県対抗で争われるフットサルの全国選抜大会。その関東大会が５月21、22日に小山市の県南体育館で開催されました。栃木県選抜は関東フットサルリーグ、栃木県フットサルリーグで戦う７チームから17選手を選抜し、大会へと臨みました。

栃木県選抜は１回戦で茨城県選抜を２－１で撃破、６年ぶり２度目となるベスト４入りを果たしました。全国大会出場が懸かった千葉県選抜との準決勝は、前半を１－１で折り返すものの、その後、失点を止められず１－７で敗れました。優勝は千葉県選抜、準優勝は群馬県選抜でした。

上位チームに与えられる全国大会出場は、本県フットサル界にとって悲願です。引き続き全国の大舞台に立てるよう、チーム強化に努めていきたいと思っています。

▲フットサル栃木県選抜のスタッフ、選手たち

全日本ユース（Ｕ-18）栃木大会
佐野日大高、真岡高が熱戦

高校世代のフットサル日本一を決める全日本ユース（U-18）大会の栃木大会が５月１日、栃木市総合体育館で行われ、佐野日大高と真岡高が出場しました。ホームアンドアウェイで行われた一戦は、２戦２勝で佐野日大高が勝利を収めました。

その後、佐野日大高は７月３日に山梨県小瀬スポーツ公園体育館で開かれた関東大会に出場しましたが、惜しくも初戦突破はなりませんでした。

▲佐野日大高の選手たち

▲真岡高の選手たち

JFAガールズサッカーフェスティバル
グラスルーツが「県内１周」

２年前にJFAの支援事業としてスタートしたJFAガールズサッカーフェスティバルの「グラスルーツとちぎ」が今秋、小山市で通算６回目となるイベントを行い、「県内１周」を完了しました。一つの区切りを迎え、井上知佐子女子連盟委員長にこれまでを振り返ってもらいました。

２年前に宇都宮市と鹿沼市からスタートしたグラスルーツは、昨年は足利市と大田原市、今年は５月に矢板市、10月に小山市で行い、「県内６地区」での開催が一巡しました。６地区で延べ200人のサッカー未経験者がサッカーを楽しんだことになります。

このイベントは、サッカーをする環境にない女子小学生たちに、ボールを蹴る、体を動かす楽しさを伝えることを目的に始まりました。女子連盟の技術委員たちを指導役に、キッズ委員会の協力を得て毎回、約２時間、サッカーを楽しんでいます。その地区で活動する高校女子サッカー部の選手たちも、このイベントをサポートしてくれています。ドリブル、シュート、ボールフィーリングなどでサッカーを楽しむメニューが組まれています。参加した小学生からは「おもしろかった」「また参加したい」などと肯定的意見が寄せられています。

このイベントを通して、ボールに触れる楽しみを知った子供たちが、将来、サッカーに携わってくれることを期待しています。また、このイベントは来年以降も継続予定で、グラスルーツでのサッカーの普及も進めていきたいと思っています。

▲未経験者がサッカーを楽しんだ小山市のグラスルーツ

《メモ》グラスルーツとは「草の根」「民衆の」と言った意味があり、誰もが関わってプレーされるフットボールを指します。FIFAは「グラスルーツサッカーはすべての、年齢、性別、サイズ、姿、レベル、国籍、信仰、人種、すべての人たちのためにある」とし、JFAは2014年５月に国内でその事業を促進する「JFAグラスルーツ宣言」をしています。

全日本女子ユース（U-15）選手権大会
栃木SCレディースが全国へ

第21回全日本女子ユース（U-15）サッカー選手権大会が７月23日から８日間、大阪府のＪ-GREEN堺で行われ、関東第８代表として本県の栃木サッカークラブレディースが出場しました。２年ぶり３度目となる大舞台を、チームを率いた森川智浩監督に振り返ってもらいました。

■１回戦／栃木SCレディース２－５ヴィトー（大阪／関西第４代表）

関東第８代表を勝ち取り、全国大会に出場しました。選手たちは、昨年、関東女子リーグを戦っていたときに中学１、２年生だった子たちです。当時、高校生や中学３年生の選手たちに必死でついていき、実力が磨かれました。

大会では初戦で敗れてしまいましたが、選手のレベルは「十分、全国で通用するレベル」だと感じました。チームは「攻守において攻撃的なサッカー」を目標に掲げています。その中でMF濱浦李花、MF川口舞依、GK長竹亜依らを中心に、選手たちは頑張ってプレーしてくれました。

相手にはFWとDFに１人ずつ目立つ選手がいて、彼女たちの個人技にやられてしまった部分もありました。その敗戦から、さらなるチーム強化のためには、個人技のベースアップや球際の技術向上などが必要と感じました。今回は何とか関東大会を突破し全国大会へ進むことができましたが、今後とも足りなかった部分をより突き詰めてやっていく必要性は感じています。

チームとしての戦い方はもちろんですが、戦術でごまかすような戦い方はせずに、選手個々が技術向上を遂げた上でチーム強化を図っていきたいと思っています。過去にはこの大会で全国３位にも入ったことがあるので、引き続き「全国で勝てるチームづくり」を念頭に置いて頑張っていきます。

▲栃木ＳＣレディースの選手たち
（栃木ＳＣ提供）

審判委員長あいさつ

（公社）栃木県サッカー協会審判委員会
審判委員長　鈴木武明
（JFA　１級審判インストラクター）

2016年３月よりJFA審判委員会の委員長が上川氏から小川佳実委員長へ交代になりました。

またJFA審判委員会の指導体制も変わりました。Ｊリーグ等で活躍する審判員を対象としたトップレフリーグループと全登録審判員数の99%を占める地域や都道府県で活躍している審判員を対象としたデベロップメントグループに分かれ、それぞれ指導・強化（デベロップメントグループは発掘も）が行われます。

デベロップメントグループでは、関東地域のまとめ役（RDO：審判デベロップメントオフィサー）を中心に

① 地域審判指導者トレーニングセンター
② 地域審判トレーニングセンター
③ 地域レフリーアカデミー

等が地域で開設されます。それに伴い、栃木県でも①～③に対応した各センターやアカデミーを開設しなければなりません。また新しい制度や取り組みも始まると思います。栃木県の指導体制もそれに対応できるように徐々に変えていかないといけないと思っています。

『栃木県から世界へ羽ばたく審判員』の指導・強化、発掘をするためには審判員の活躍のみならず、審判員同様に審判指導者の数や質、一貫性をJFAに準じてあげなくてはなりません。今まで審判指導者に興味がなかった方、あるいはその制度すら知らなかった方も指導する立場での活動を考えてみてください。様々な形でサッカーに関われば、今まで以上にサッカーを楽しむ幅が広がると思います。

話が変わりますが、サッカー競技規則が130年の歴史の中で最も大きく改正されました（栃木県内での新競技規則の適用時期は各種別で違いますが、来年度からは完全実施）。キックオフを後方に蹴っても良くなったり、三重罰が緩和されたり、なかなか難解なところがあると思います。そこで、今年度の登録更新講習会は是非会場に足を運んでいただきたいと思います。さらに講習会という堅苦しい雰囲気だけではなく、その様な場で審判員同士の和を深めていただけるとありがたいと思います。

国体も控えております。皆様方の協力の下、栃木県サッカー界の飛躍とともに審判委員会もさらなる発展を目指していきます。お忙しいとは思いますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

タイトル「イパネマの審判」

国際副審　相樂亨

※コパカバーナ（ビーチ）

＜３度目のリオデジャネイロ＞

2013年コンフェデレーションズカップ及び2014年ワールドカップに続いての３回目のリオデジャネイロ。

大会前は、治安・ジカ熱など、ネガティブなニュースが飛び交いましたが、私自身は過去の経験からまったく不安はありませんでした。

リオは本当に美しい街だし、ブラジル国民は日本人を本当の兄弟だと思っている、というようなポジティブなニュースが流れないことに腹立たしさを覚えるほどでした。もちろん危険な地域を一人で歩かないであるとか、ジーンズのポケットから財布がはみ出していたりする格好はしないであるとか、最低限のマナーは守りますが、それはたとえば交通ルールを守らないと事故を起こすと行ったようなことと同じであり、世界共通であるはずです。

さて、今回のオリンピックも、FIFA審判員にとっては「ワールドカップの登竜門」である事に変わり無く、ここに呼ばれた審判員の多くがロシアワールドカップに参加することになるでしょう。

我々日本人審判団（佐藤隆治主審39歳愛知県、山内宏志副審37歳東京都、及び私）にとってもこのチームで行く最初のFIFA大会であり、いい準備をしてリオに乗り込みました。

パリ経由で都合38時間のフライトで到着した次の日にはセミナーがスタートし、３日目にはYO－YO－テストで時差ぼけを一気に吹き飛ばすというような極めてハードなスケジュールですが、不満を漏らす審判員が一人もいないのはさすがです。

※USAの指導者と女性審判員

＜セミナーの内容＞

ルールブックの全面改良を行った直後の大きな大会であるため、その変更部分に特化したセミナーとなりました。特にペナルティエリアの中で決定的な場面が起きたときの対応が繰り返し話し合われました。

何が「ボールへのチャレンジ」で何が「ボールへチャレンジしていない」のか。

この辺の見極めが今までに無い判断であり、参加した審判員も非常に集中してFIFAの説明を聞いている感じでした。

ピッチ上でのトレーニングでも実際に選手にそのような場面を作らせて判断させる、という事を繰り返し行ったので、徐々に身体にしみこんでいく感じがしていきましたが、どの審判員も「いざ実際の試合で起こってみないと反応できるかわからない」という思いも少なからずあったはずです。

※真剣なまなざしでセミナーを受ける３人

＜担当した試合＞

予選第２戦：デンマークｖｓ南アフリカ

会場は首都ブラジリア。

ワールドカップブラジル大会では、３位決定戦の予備副審を担当した思い出の地です。あの時はまさかもう一度来ることがあるとは思いもしませんでしたが。

試合は佐藤主審の素晴しいコントロールと両チームのファプレーにより素晴しい好ゲームになりました。デンマークの虎の子の１点はオフサイドかどうか（ゴールキーパーの視野を遮っていたかどうか）が非常に難しいシーンとなりましたが、FIFAの見解は「良い角度の影像がなく非常に悩ましいが、審判団の判断を尊重する」というものであり、試合全体の評価も高いものでした。

残念ながら今回はほかの審判員が大物揃いであったこともあり、この１試合だけの担当となりましたが、与えられた試合でいい仕事ができたので次に繋がると思います。

＜そのほか＞

オフの日に、オリンピックパークに行くことができ、テニスの「センターコート」でナダル選手の試合を見ることができました。

初めてテニスの公式試合を観戦しましたが、観客のマナーの良さに驚きです。

観客席の入場はセットとセットの間のみに制限されており、サーブの際には誰からともなく「しー！！」との声が上がり静寂が保たれます。いいプレーにはスタンディングオベーション。会場の雰囲気には英国紳士のスポーツの醍醐味が凝縮されており、栃木県にもサッカー専用スタジアムはもちろんのこと、テニスのセンターコートも必要だとの情熱がわき上がりました。

※センターコートでナダル選手の試合を観戦。
右は日本人女性副審の手代木さん。

以上

※栃木県審判委員会主催で行われた帰国報告会の様子

真剣な面持ちの参加審判員

2015年度第2回審判研修会を開催して

栃木県社会人サッカー連盟審判委員会
舘岡孝弘

平成28年３月５日（土）、６日（日）、の１泊２日の日程で「2015年度第２回審判研修会」を河内運動公園の陸上競技場と会議室、コンセーレ等で開催しました。私も委員として参加しましたので、今回は主催者側の目線で報告させて頂きたいと思います。

研修会の目的ですが、2016年シーズン前の体力確認、社会人連盟審判活動におけるレベル合わせ、仲間との親睦です。「2015年度第２回審判研修会」となっていますが、2016年度に向けてのシーズン開幕前研修会との位置づけになっています。

【研修会１日目】

13時より、第１種委員長の菅野氏（栃木県サッカー協会審判委員会副委員長）を中心に羽石副委員長の進行で研修会がスタートしました。

菅野委員長からの挨拶のあと、競技規則テストを実施しました。今回の問題は関東強化審判員の大塚氏が作成したもので、2015/2016年競技規則の基本的な部分を中心に競技規則改正部分や審判員のためのガイドライン、Q&Aなど関東の研修会でも良く出題されているような問題でした。

競技規則テストは自分の競技規則の理解度を知るためにも重要です。深い競技規則の理解は試合での公平性向上や選手一人一人のプレーする環境整備など一翼を担っているので、今後も努力していきたいと思います。

競技規則テスト後は外の陸上競技場にて15時から体力確認を行いました。ここ数年はインターバル走（150mダッシュと50m歩行）を１級基準と２級基準で実施していましたが、今回は久しぶりのクーパー走（12分間走）でした。このクーパー走では日頃どのくらいトレーニングをしているかが顕著に結果に表れます。トレーニングをしてもクーパー走が得意な人、不得意な人に分かれてしまいますが、それぞれが開幕前にどの程度、体力があるのか確認できたと思います。

審判員は選手と同ぐらいに体力がないと試合中、プレーから遠くなり、いくら正しい判定をしても説得力がありません。審判員にとって競技規則同様に体力も絶対必要です。

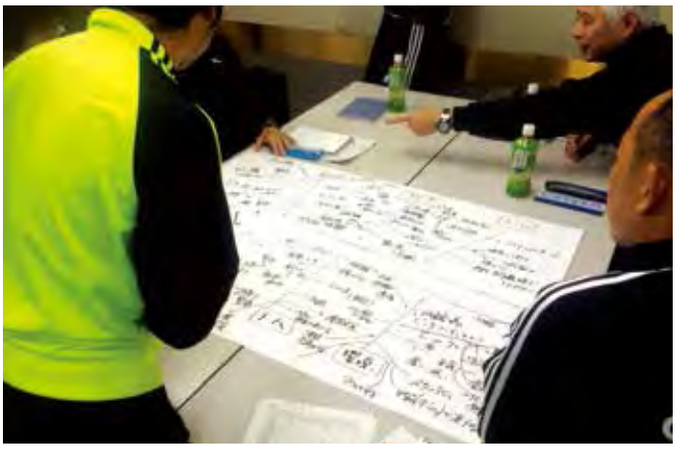
クーパー走の風景
先頭は長峯氏（記録は3580メートルでした）

会場をコンセーレに移して、夕食の後、全体研修会が行われました。ここでは競技規則テストの答え合わせ、グループディスカッション、映像によるレベル合わせなどを行いました。

グループディスカッションでは「特性要因図を使った改善方法のディスカッション」を行いました。これは、よく企業の改善活動などで使われる「フィッシュボーン・ダイアグラム」と言われる手法です。原因を追究する場合に活用したり、管理や改善のやり方の検討に用いたりします。今回のディスカッションでは「選手がプレーに集中しない」を題材にサッカー審判員自体の問題やチーム、環境、個人、文化、国など、さらにサッカー以外の要因などたくさん意見が出されて大盛り上がりでした。このようなディスカッションは審判員のコモンセンスを養い、直接的ではありませんが試合中の判定基準の確立、私生活（職場や学校）にもつながると思います。

研修会の終わりには菅野委員長より、社会人連盟審判委員会の活動計画や重点テーマ「なぜ・なぜ（目的と結果）」、行動方針「元気に楽しく、真剣

に審判をしよう」、目標値の説明などがあり、開幕に向けて審判員が同じ方向を向くことができました。



意見を出し合う参加審判員

21:00より研修会の目玉でもある懇親会です。種別やカテゴリー、年齢、性別、職業などさまざまですが、一緒にお酒を酌み交わし親睦を深める楽しい一時です。お酒の席ですが審判活動に役立つ話や、私生活や職場でも使えそうな話など参考になるものも得ることができます。特に若い審判員からは「先輩との接し方が学べた」や「上司とのかかわり方のヒントになった」等など声もあり、良い雰囲気が作られていました。

【研修会２日目】

２日目の朝6:30にコンセーレの玄関前に集合し、近くの護国神社まで散歩をしてモーニング・トレーニングを行いました。モーニング・トレーニングで体を目覚めさせ、その日の自身の体調を知ることが、試合準備の一歩となります。宿泊を伴う研修会に参加した事が無い審判員にとっては新鮮な経験だったと思います。

10:00より実技研修＆観戦研修を５会場（宇都宮サッカー場、さくらスタジアム、グリーンスタジアム、壬生町総合運動公園、作新大学）で公式戦、トレーニングマッチを使って行いました。審判員の割り当ては、競技規則テストと体力確認の結果を参考に行いました。実技研修終了後、審判員同士で反省会を行い、様々な意見を出し研修しました。また、インストラクターの資格を持っている方にはインストラクターの目線で意見を出してもらい、さらに深く掘り下げた部分まで考え研修をしました。

今回の研修会を実施して、開幕前の研修会の重要さと仲間同士の研鑽があらためて大切だと思いました。今後も少しずつではありますが、社会人連盟審判委員会で出来ることを確実に実践して、少しでも栃木県のサッカーに貢献できるように努力していきたいと思います。

最後に「子供の為に審判の資格を取得したけど活動の場があまりない」、「社会人、大学の試合の審判をやってみたい」さらには「上級の審判員を目指したい」という方がいらっしゃいましたら是非とも栃木県サッカー協会までご連絡ください。私たちと一緒にサッカーの審判を楽しみましょう。

韮崎フェスティバルに参加して

県強化２級審判員　　若井田　駿

７月16日から18日に、山梨県韮崎市にて行われた、第36回韮崎フェスティバルに参加させていただきました。関東各都県から強豪校が集まり、今年で36回目となりました。栃木県からは私を含め３名が参加しました。

研修のテーマは「動きとポジショニング」でした。正確な判定のため、フィールドをどのように動くのか、また適切なポジショニングをすること、この状況下ではどこが適切なポジションなのか、などを中心に研修をしました。

異なる都県の３名で３日間、チームで研修を行い、計６試合担当することができました。初めて組む審判員と試合をするので、コミュニケーションが欠かせない研修となりました。この大会は暑い中、１日数試合の審判をするので、体力面・精神面の強化にもつながりました。大きな収穫となったことは、チームで副審に就いたとき、主審をしている審判員の動きとポジショニングであったり、動き方を勉強できたことだと思います。

このような環境で審判ができる喜びを感じ、また研修会に参加させていただいたことにより、審判としての責任を感じることができた研修会になりました。上荒敬司インストラクターから、「進歩は危機感を持つことで始まる」のお言葉をいただき、大変刺激を受けました。

最後に、今回、韮崎フェスティバルに参加させていただきありがとうございました。この研修会で得たことを還元し、少しでもステップアップできるようにしてまいりますので、今後ともよろしくお願いします。

韮崎フェスティバルにて写真一番右が筆者

「平成28年度 情熱疾走 中国総体に参加して」

サッカー２級審判員 長峯滉希

広島県で開催された平成28年度全国高等学校総合体育大会に７月25日（月）から７月29日（金）の５日間、研修審判員として参加させていただきました。

今大会の研修会のテーマは「動きとポジショニング」でした。１．動きとポジショニングを意識する　２．説得力のあるポジショニングで的確な判定　３．攻守切り替え・加速・寄せ・見極めを発揮する　４．プレーに邪魔にならない　５．高校生年代の能力を発揮させるゲームコントロールに努める　６．信頼を勝ち取る→大会成功に繋がるというお話がありました。５日間の講義では主に「2016/2017競技規則の改正」のPK、オフサイド、決定的得点の機会の阻止などについての確認を行いました。

私は、インターハイに初めて参加するので、県内の方々からは「主審を１試合できれば良い」「２級は１試合しか主審ができない」と言葉を掛けていただいていたのですが、「主審を２試合担当すること」という大きな目標をもって研修会に臨みました。

主審を担当させていただくための判断材料は、①競技規則テストの結果②研修試合でのパフォーマンス③プラクティカルトレーニングの３つであった。25日正午に集合し、競技規則テスト、研修試合。翌日、午前中にカウンターアタックの対応、オフサイド、PKのプラクティカルトレーニング、午後には研修試合を行い、27日の割当が決定する。競技規則テストの結果は発表されなかったが手応えは良かった。研修試合では主審、副審をそれぞれ15分のみ行った。15分という短い時間であったため、あっという間に終わってしまったという印象が強く、アピールできたとは思えなかった。プラクティカルトレーニングでは３つのグループに分かれ、私はグループのリーダーを任された。トレーニングが始まる前に他のグループはウォーミングアップをしていなかった。私は自分のグループのメンバーに声を掛けて、グループ全員でウォーミングアップを始めた。残りの２グループのメンバーは個人で行っていた。トレーニングが始まっても「チーム」としてまとまって行動するように言葉を掛け続けた。レフェリングと全く関係のないことかもしれないことだが、研修会の開校式でチーフインストラクターの木島さんから「大会成功のためにレフェリーチームとして一枚岩になりましょう」とお話をされていたことが胸に強く響いたため行動することができ、仲間と有意義なトレーニングができた。

２日間の研修の成果で私は27日の１回戦の主審の割当をいただいた。盛岡商業（岩手）vs慶應義塾（神奈川）の試合を担当し、自分のストロングポイントである走りを生かしたレフェリングで試合を無事に終了させることができた。攻守の切り替えが早く、とてもスピーディーな試合で観客も1100人記録していたので良い雰囲気でとても良い試合であった。少し満足していた私は、２回戦の主審は１級審判員が担当するだろうと思っていた。しかし、夜の研修会で割当が発表され、２回戦の主審の割当をいただいた。正直、主審はないだろうと思っていた。そして、１回戦で走りきってしまったことで疲労があり不安があった。しかし、せっかくのチャンスを無駄にしては意味がない、動けなくなるまで走ってやろうと思った。２回戦は、日本航空（山梨）vs京都橘（京都）の試合を担当した。選手たちも連戦の疲労が感じられたが、U-18日本代表選手などの技術が高い選手が多く、球際も激しい試合で互いに譲らずPK戦までもつれ込んだ。

最終日の３回戦は、第４審判員を担当し、結果的に主審を２試合、４thを１試合担当した。目標である「主審を２試合担当すること」を達成できた喜びもありますが、全国大会という舞台で自分の課題がまだまだ多くあることが自覚することができました。これからも１試合１試合を大切に積み重ね、成長していきたいと思います。

今年のトヨタカップにて左端から２人目が筆者

インターハイという素晴らしい大会に派遣していただき本当にありがとうございました。栃木県サッカー協会並びにお世話になった大会関係者の方々に御礼申し上げます。

2016JFAフットボールフューチャープログラム（FFP）育成担当インストラクター研修会に参加して

栃木県審判インストラクター　髙瀬　亮

８月３日（水）～７日（日）の５日間、静岡県裾野市において開催されたFFPに審判育成担当インストラクターとして参加させていただきました。この大会は、U-12年代の各都道府県トレセンの大会であり、審判（１人審判制）をユース審判員が担当しました。栃木県からは、ユース審判員として高橋花梨さん、JFA審判インストラクターとして鈴木武明氏、育成担当インストラクターとして私が参加しました。

初日の８月３日（水）は、三島駅に集合した後、今回の研修会場（宿舎）である帝人アカデミー富士に移動し、開講式を行いました。JFA審判委員長の小川佳実氏の挨拶の中で、「審判員は試合の中で、選手をマネジメントする役割がある。選手（人）をマネジメントする者として自分を磨き、信頼され、魅力ある人間でなければならない」という話がありました。審判に関する指導以前に、人間的な部分を磨いていく必要があることを痛感し、指導育成する者としての責任を強く感じました。大会レギュレーションを確認し、試合会場である時之栖グラウンドに移動しました。私たちのグループは、５名の育成担当インストラクターと６名のユース審判員で構成され、JFAインストラクターの吉野内浩志氏、地域インストラクターである関東（神奈川県）の秋田真一氏が指導をしてくださいました。

２日目の午前中は、時之栖グラウンドに移動し、試合分析とユース審判員への指導を行いました。午後は、JFAレフリーフィジカルコーチである山岸貴司氏の講義とJFA審判インストラクターによりプラクティカルトレーニングがありました。プラクティカルトレーニングでは、「ボールインプレー・アウトオブプレーを正しく判定するための協力」と「争点を監視するための動き・ポジショニング」について、実践的に学ぶことができました。夕食後、プラクティカルトレーニングと審判員への指導の振り返りを行い、審判員の課題はどんなところで、それを克服するためにはどのようなアドバイスやトレーニングをすればよいのかを深く考えることができました。これまで何気なく行ってきたトレーニングを見直し、「ねらい・場の設定・時間配分・立ち位置」など細かな点に留意してメニューを考えていくことの大切を学ぶことができました。

３日目は、「競技規則の改正」・「技術との協調」というテーマでの講義やプラクティカルトレーニングの指導案作成などに取り組みました。３日目になると、育成担当インストラクターとの仲も深まり、互いの考えをぶつけ合いながら一つの指導案を作成することができました。私は、北海道・静岡県・兵庫県・佐賀県のインストラクターと同じグループでしたが、様々な意見交換や情報交換ができたことは、とても貴重な経験になりました。

４日目は、作成したトレーニングの実践とその振り返り、会場に移動しての試合分析・指導を行いました。トレーニングのねらいは達成できたのか、審判員が次の試合に生かせる内容であったか・・・など多くの点について指導をいただきました。

最終日は、時之栖スポーツセンター裾野グラウンドに移動して、試合分析と審判員への指導を行いました。５日間の研修で、ユース審判員の動きが改善され、よりよい判定につながっていることを感じました。５日間、共に研修してきた審判員の真っすぐな心と熱心に取り組む姿勢に、胸が熱くなりました。別れの時は、数年間指導した教え子の旅立ちを見送るような気持ちになりました。

雄大な富士山の麓での研修会は、私に多くの出会いと学びを与えてくれました。そして、今後の自分の方向性を示してくれたと思います。フェアで、スピーディーで、タフな選手を育成するためには、技術指導者だけではなく、審判も大きな役割を担って

筆者（裾野グランドにて）

研修会のメンバー

いると思います。それと同じく、審判育成は審判指導者だけではできません。特に、ユース審判員の育成はサッカー界全体で取り組んでいくことであると感じています。ユース審判員の活躍の場が増え、審判員としてサッカーに関わっていくことの喜びと責任を感じられる環境を構築していくことが、この研修会に参加した者の責務と考えています。

最後に、この研修会に参加させてくださったことに感謝し、そしてユース審判員のさらなる活躍を祈念して、研修会報告とさせていただきます。

関東中学サッカー大会に参加して

県中体連強化審判員　福田 陽一朗

２016年８月６日（土）から９日（火）まで、埼玉県にて関東中学サッカー大会が開催されました。この大会は、2016年度の第３回関東審判研修会も兼ねており、私はこの研修会に研修生として参加させていただきました。

研修初日の６日は、13時に浦和駒場スタジアムに集合し、競技規則の確認とプラクティカルトレーニングを行いました。競技規則については、研修生同士でディスカッションしながら新競技規則の改正内容の整理をし、プラクティカルトレーニングでは、実際に試合で起こりうる場面を演じてもらい、その場面でファウルがあったかどうかを見極めるトレーニングを行いました。短い時間ではありましたが、暑さのせいもあって、体力的にもきついトレーニングでした。夜は審判インストラクターから審判員の姿勢や心構え等の基本的なことについての講義がありました。翌日の審判割当の発表をもって初日の研修会は終了になりましたが、初めて関東の審判研修会に参加した私にとってはとても刺激的で充実した一日を過ごすことができました。

７日からは大会１回戦が始まり、私は１回戦の主審と２回戦の副審を担当しました。今回の研修会に参加するにあたっては、栃木県の審判インストラクターに指導を仰いだり、自主トレを積んだりして、万全の準備をもって臨んだつもりでしたが、各県の代表校同士のレベルの高い試合に対応しきれない部分もあり、反省点が多く、自分の力不足を思い知らされた大会になりました。

（７日１回戦　選手入場）

そんな中でも、大会期間中を通して、審判インストラクターから指導をいただいたり、他の研修生と切磋琢磨し合ったりして過ごせたことは、大きな財産になりました。今回の研修会で学んだことを今後の審判活動に生かし、自分の成長につなげていきたいと思います。

今回、この関東研修会に参加するにあたって、推薦してくださった栃木県審判委員長をはじめ、これまでの審判活動の中で気にかけて励ましてくださった栃木県の審判関係者の方々には、この機会をいただいたこと、大変感謝しております。また、この大会を勝ち抜いて全国中学校サッカー大会に参加した中学校の活躍は素晴らしいことだと感じています。栃木県からは２年続けて全国大会に出場しています。このようなチームの活躍を励みに、審判員としてのレベルの向上を図り、栃木県のサッカーの発展に貢献できるよう努力をしていきたいと思います。

８月度県審判トレセンを開催して

県審判委員会　副委員長　菅野　仁和

県審判委員会では、毎月、審判トレセンを開催しております。今回、８月13～15日に８月度審判トレセンを実施しましたのでご紹介致します。

県審判トレセンは、通常は講習会形式で開催され、講義やルールテスト、テーマを設定してのディスカッション等を行っておりますが、８月は試合で実際に審判を行って指導や意見交換を行う実技形式になっています。今年も、第27回真岡カップにて２泊３日の宿泊研修の形で実施しました。（真岡カップは、真岡高校サッカー部やサッカー部父母の会等の方々により主催・運営されており、県内外から強豪20チームが参加して試合が行われるレベルの高い大会で、毎年研修会に使用させていただいております。）

今回の参加者数、テーマ、スケジュールは以下の通りです。

＜参加者数＞　34名（１～３級。女性、ユースも含む）

＜テーマ＞　基本

＜スケジュール＞

１日目（8/13）

8:30　集合、ミーティング、プラクティカルトレーニング

10:30　実技

19:00　全体ミーティング

２日目（8/14）
6:15　モーニングトレーニング
8:30　ミーティング、プラクティカルトレーニング
9:00　実技
19:00　全体ミーティング
３日目（8/15）
6:15　モーニングトレーニング
8:30　ミーティング、プラクティカルトレーニング
9:00　実技
16:00　全体ミーティング
16:30　解散

まずテーマの基本についてですが、最近は情報が多いこともあって上級審判員の真似をすることが上手くなる方法と考えている人もいるようです。真似も良いのですが、やはり何事も基本が大切であり、対角線式審判法、ポジショニング、シグナル等基本に戻ってみようということでこのテーマを設定しました。これを基に、“朝のミーティングでテーマを確認し、実技を行い、夜に振り返って次の日に繋げる”を繰り返して研修を行います。

次に朝のプラクティカルトレーニングですが、指導者や参加審判員の中で３級インストラクターの資格を持つ方に割当をし、その担当者がトレーニングメニューを考えて実施しました。この中にも走る時のコース取りや主審と副審の協力等たくさんの基本が入っており、実際の試合の中で役立つものです。真剣な中にも笑いやダメ出し等もあり、トレーニングさせる側のインストラクターもトレーニングする側の審判員も楽しく？行うことが出来ました。トレーニングの締めは、審判員全員でエンジンを組み、次に行う実務のために選手同様に気合を入れました。審判員のエンジンは、きっとここでしか見ることが出来ないでしょう。

次は、いよいよ審判の実技に入ります。今回のトレセンでは、初日と２日目は参加者を４グループに分け、リーダーを中心に割当や意見交換等の全てをグループで実施しました。35分ハーフの試合ですが、暑さや高校生のスピード、仲間からの応援の声（プレッシャー？）等があり簡単ではありません。また、研修会ということもあり、普段は行わないのですが指導者がハーフタイムにアドバイスを送り、後半にその事にチャレンジしてみるという場面もありました。初めての参加者や普段4種（少年）を担当している審判員は特に大変そうでしたが、レベルの高いゲームの主審を出来ることや、上級審判員と一緒に組んだりアドバイスをもらったり出来ること等が嬉しかったようで、良い顔で一生懸命取り組んでいました。

テーマである基本については、
１日目：グループでの個別設定
２日目：フリーキック時にクイックリスタートを保障しながらも壁（9．15mの距離）を早く確実にコントロールする
３日目：フリーキック時に再開を遅らせる目的でボールに近付いてくる相手競技者に対応し、スムーズに競技を再開する

を重点テーマに設定し、参加者全員が意識をして取り組みました。

試合が終わるとグループ毎に振り返りを行い、まとめたものを持ち寄って全体ミーティングを行います。悪かった点を反省するだけのミーティングではなく、良かったことや上手くいかなかったこと、他の人の意見を聞きたいこと等を発表して意見交換を行います。全体ミーティングには約束事が１つあります。それは、「参加者は必ず１回以上自分の意見を言うこと」です。他の人の意見を一方的に聞いているだけでは意見交換の場になりません。だからと言って、進行役が指名をすることもありません。この約束事により積極的で活発な意見交換の場となっています。

その日の締めは、懇親会です。強制参加ではなくあくまで有志によるものですが、間違いなく全員が参加します。アルコールが入ることで審判の話だけでなく私生活や仕事の話等も飛び交い、全体ミーティング以上の盛り上がりになります。もしかしたら、この場が一番情報交換ができ、一番親睦を深めることが出来る本当の研修会なのかもしれません。（笑）

３日間のトレセンはこのような内容で進められました。３日という期間は長くも感じますが、終わってみるとあっという間です。

トレセン後に参加者に実施しましたアンケートでは、

・プラクティカルトレーニングは、実戦をイメージしたトレーニングが多く、実際の試合で実践できた部分もあり、非常に有意義でした。
・高校生のスピードを実感。レベルの違う試合を体験出来て良かったです。
・１日だけの参加でしたが、審判員仲間とグループテーマを持ち、実技を行い、個別反省会や全体研修会で検証を図り、その後の懇親会では他の方の経験談を聞くこともでき、メンタル面でも参考になりました。非常に充実した１日でした。来年もぜひ参加したく思います。

等、多くの「参加して良かった」という声が寄せられました。

このように、我々審判委員会は審判員を育成する企画を立てて実施しております。そして、そこに参加する審判員も良いゲームを作るために努力をしているということを多くの方に解っていただけると幸いです。また、この記事を読んで１人でも「私も参加してみたい」あるいは「審判をやってみようかな」と考える方がいれば嬉しい限りです。そう思われた方は、県サッカー協会までご連絡ください。来年の８月度トレセンで初めての参加者に会えることを楽しみにしています。

皆さん、審判でサッカーを楽しんでみませんか。
最後までお読みくださりありがとうございました。

朝のプラクティカルトレーニングの様子

実技の様子①（女性審判員）

実技の様子②（ユース審判員）

『二級審判員として今考えること』

栃木県女子審判員　斉藤 清美

去年の今頃、私は自分が２級審判を受けることなど全く考えておりませんでした。数年前に何度目かの３級昇格試験に失敗した後は、両親の介護が続き、４級審判を失効した時期もありました。生活環境が落ちつき時間に少し余裕が持てるようになってきた頃、息子が少年団の頃にお世話になった方に「３級を受けてみないか。」と声を掛けていただきました。一度断念したことなので躊躇しましたが、私もそのまま否定されたような状態でいるのも実は口惜しく、もう一度だけ受けることにしました。「これから女子の試合は女子の審判で」という気運にも恵まれ、2014年11月に３級になり、県女子リーグの入れ替え戦の副審、高校女子新人戦３位決定戦主審など、責任の重い試合も担当するようになりました。試合当日の朝、会場に遅刻する夢を毎回見るほど緊張を強いられますが、同じフィールドに立っている選手達の集中力と真剣さを間近で感じられた時、充実感でいっぱいになります。

「文句しか言われないこと、よくやっているね。」と、中学までサッカーをしていた息子になかば呆れ顔で言われますが、こんな自分でも、もう少し技術的に成長できるのではないか。精神的に余裕をもって見られるのではないか。という、よく言えば向上心という「欲」に突き動かされて続けております。もうひとつ大きなことは審判委員会の皆さんが学ぶための環境を整えて下さっていることです。競技規則の深い理解力や判断基準の統一、スポーツドクターによる講義など、審判トレセンで学べるのを始め、試合に必ずといっていい程アセッサーの方が入って下さり、試合直後に指導を受けることができます。

今回２級試験に臨む時に背中を押してくださった指導者の方からは、重要な試合の前にもメッセージをいただき、私の初心者のような質問にも具体例を上げ、的確に時にユーモアを交えて教えていただいております。その方の言葉で大切にしているのは、「審判は悲観主義者であれ」です。目まぐるしく変わる試合の状況を読み、適切な位置取りをし、いろいろな可能性、例えばドリブルでシュートできる位置まで持ち込んだ選手を相手競技者が引き倒すかもしれない。反対に手で扱ってゴールするかもしれない。たくさんの「かもしれない」を予測し、何事もなければ良かったで、次に集中

する。審判はこの繰り返しであること。但しなかなか集中力を継続させるのも難しく、今後の大きな課題です。また「試合の中では必ずミスをする。ミスした気持ちを引きずって次を間違えない。してはいけないミスは犯さない。」など、今まで意識しなかったことに、たくさん気付けるようになったことは、審判以外の日常生活に於いても私の財産になっています。

最後に、なでしこリーグや女子の国際試合を見て、審判に興味を持たれている女性もたくさんいると思います。私も全くゼロの状態から始めました。「審判おもしろそうだな。やってみようかな。」と思うきっかけにでもなることができれば幸いです。

技術委員会報告

技術委員長　川上栄二

U-14タイ遠征

昨年度爆破事件の影響で内容を韓国遠征に変更し実施せざるを得なかったタイ遠征が、金子団長指揮下２年越しで実行に移すことができました。８月15日から19日までの４泊５日タイ・インターナショナルカップに２チーム体制（鈴木チーム、綱川チーム）で参戦し、４位・５位という結果で終了しました。地元タイのチームとの交流戦やカップ戦を消化し、決してタイのチームのレベルが低くないことを肌で感じることができました。

遠征の概要及び詳細につきましては、後日報告書が上がって参りますのでここでは割愛しますが、今回は中体連選抜ではなくクラブ連盟の協力のもとクラブ選手も多数希望者ではありますが参加しました。県内においてクラブ単位で海外遠征を実施しているところは３チームのみで、この県選抜での遠征を利用してもらうことに関しては有意義なことであると考えます。この多感な時期に視野を広げることは、サッカーのみならず日本人としての自覚形成にもつながります。

2022栃木国体育成強化事業

① U-10地区トレセンサポート

国体世代の強化策の一環として県技術委員が各地区の４年生トレセンの指導をサポートした地区トレセンの指導者と情報交換をするとともに、地区選手の実態を把握していくことが目的である。それぞれの地区で若干の温度差はあるものの、選手、指導者ともにメリハリのあるトレーニングを実施していた。コーディネーション、ドリブルフェイントスキル、３対３などの判断を伴うトレーニングなどを精力的にこなした。

②U－９キッズトレセン（2022以降を見据えて）

国体世代からは１世代後の選手たちであるが、国体強化後の県の育成の体制作りの一環として昨年度に引き続き実施している。今回もキッズ委員会中心にプログラムを作成していただき、ゲーム中心であったが終日子供たちと共に楽しむことができた。この世代からすでに特徴のある選手も多数いた。このような選手たちに良い刺激を与え続けられるようにしていくことは栃木県としての課題であると考える。保護者対象の栄養学講座も好評で、100名程度の保護者が参加してくれた。

育成のスタートはいつなのか？この年代はすでに育成の段階であるとして捉えられなければならないと考える。次回以降はより多くの４種の指導者（キッズ以外）の積極的な参加を促していきた。

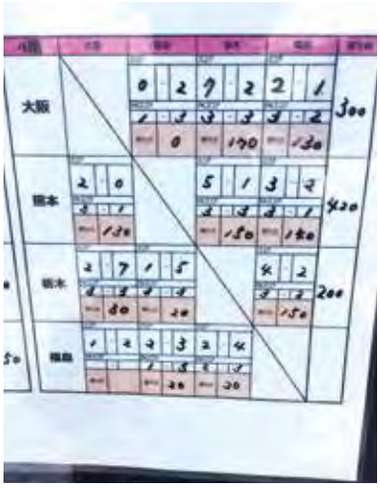
③中体連女子育成強化

すでに６/21と８/11の２回実施した。１回目は宇都宮工業高校会場で16名の参加、２回目はサンエコ鹿沼自然の森にて14名の参加であった。小山城南高校サッカー部の選手にもサポートをしてもらい、トレーニングやゲームで楽しい時間を過ごすことができた。３回目は10/22に小山運動公園での実施を予定している。活動参加のための保険の問題など、多少の課題はあるものの、女子だけの有意義な時間は補償できていると確信している。

④FFP視察

JFA主催のフットボール・フューチャー・プログラム（以下FFP）に県の技術委員である福田哲也氏が視察を行った。

各県より多くの指導者が参加し、研修を行った。栃木からの参加は少なかったのではないかとの指摘もある。今後指導者の研鑽の場として位置付けていくことも視野に入れる必要があるのではないだろうか。



第71回国民体育大会
関東ブロック大会サッカー競技開催

第71回岩手国体への出場をかけ、少年男子が８月17日（水）18日(木)に山梨県押原公園で、成年男子が８月13日（土）、14日（日）に同じく山梨県押原公園で、女子は山梨県韮崎中央公園で関東ブロック大会が開催され、栃木県チームも本大会出場を目指し、激闘を繰り広げてきた。

少年男子

成年男子

2016国体チームの活動を振り返って

山崎　透

2016国体チームは、強い気持ちを持って闘うこと。チームとして戦うこと。自分自身をリスペクトすること。自分のストロングポイントを積極的に出していくこと。チームへの忠誠心を持つことをコンセプトに早生まれ選手・U15セントラルトレセン選手・県外出身者を対象とした選考会を行い、４月の１週目水曜日から活動がスタートしました。４月の最終日曜日にトレセンマッチデーの初戦がある為限られた中でのトレーニングとトレーニングマッチで攻撃と守備のコンセプトを確認しながら初戦の東京都との試合に臨みました。結果勝つことが出来、幸先の良いスタートを切ることが出来ました。５月の２戦目に向けては東京都の試合でのベースとなったブロックを作った守備とプラスαで攻撃の部分でクオリティーを出していく為のトレーニングを重ねていきました。その狙い通りに２戦目の茨城県との試合では攻撃の部分で良い形を多く作ることが出来、多くのチャンスを作り出すことが出来ましたが、ゴールを奪うことが出来ませんでした。懸念していた後半立ち上がりに失点をしてしまい、敗れてしまいました。決定機が多かった為に悔やまれる敗戦でありました。３戦目は７月に行われ、その間インターハイの予選があり、自チームで中心選手も多く、全員が揃う日が無く難しい期間でありました。栄養学、心理学を入れて顔を合わせる機会を設けながら自チームでしっかり活動することを促しました。７月マッチデーの週の水曜日に全員が揃い、週末の試合に備えました。３戦目は他の結果もありましたが、栃木県としては２点差以上で勝たないとグループ２位以内を確保することが難しいという状況だったので、攻撃的な姿勢を貫くことと終盤のパワープレーも視野に入れながら準備をしました。３戦目の山梨県との試合では勝たないといけないということと暑さもあり堅い試合になりましたが、後半先制点を奪うことが出来、同時刻で行われているもう一つの試合の状況で２点目を取らないとグループ２位以内に入れないということで準備をしてきたパワープレーで２点目を奪いにいきましたが、２点目を奪うことが出来ず終盤に一瞬の隙を突かれて失点し引き分けで終わってしまいました。関東ブロック大会前の３試合が終わり栃木県は１勝１分け１敗のグループ３位になりました。関東ブロック大会では２回勝たないといけないということで、それを踏まえて遠征・トレーニングマッチ・合宿を決定し、関東ブロック大会に備えました。宮城県、新潟県、福島県とトレーニングマッチを行い、宿泊を伴う遠征では石川県和倉に遠征を行いました。和倉遠征では素晴らしい環境の中で、Ｊリーグのユースチーム、強豪校と多くの試合をし、寝食を共にすることで結束を高めることが出来大変有意義な遠征となりました。１日オフを挟んで栃木県内で調整合宿に入りました。コンディションを調整すること、セットプレーの確認、攻守の切り替えを徹底することを中心に行いました。午前トレーニングを行い、午後は皆で食事をし、プール・温泉に入りリラックスした時間を過ごしました。関東ブロック大会前日午後に山梨県甲府市に入り試合会場を視察して宿舎に入りました。和倉遠征、調整合宿を経てチームの雰囲気も良くやってくれるだろうという大きな期待と楽しみを持ちながら関東ブロック大会当日を迎えることが出来ました。関東ブロック大会初戦は埼玉県。結果は残念な結果となってしまいました。関東ブロック大会独特の雰囲気に呑まれてしまい、トレセンマッチデーの時のような試合をすることが出来ませんでした。そこが一番悔しい所でありましたが、選手は最後まで全力でプレーしてくれました。

今年度の国体チームの活動を通して、栃木県の選手達は、関東のレベルの高い地域においても十分に戦える力はついてきているのではないかと感じまし

た。十分勝負出来る位置にいると思います。今後はより厳しい試合の経験が必要になります。日々のトレーニングからインテンシティーを上げていくこと。常日頃から勝負にもこだわること。高い意識を持ってサッカーに取り組むこと。我々指導者もより高い所に目を向けていかないといけません。一つ一つの試合を大切にしていくことが厳しい試合を勝ち抜くことに繋がっていくのではないかと思います。

最後に国体チームを活動するに当たって多くの選手を快く送り出して頂きまして本当にありがとうございました。練習試合、会場提供などたくさんのご協力も頂きましてありがとうございました。トレセンマッチデーも含めまして関東ブロック大会では遠く山梨県まで足を運んで頂きましてありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

第71回国民体育大会関東ブロック大会総括

≪はじめに≫

平素より栃木ウーヴァFCを栃木県強化指定クラブとしての活動にご理解、ご協力を受け賜わり誠にありがとうございます。また栃木県体育協会及び第１種委員会・社会人連盟の皆様には、大会前からオフザピッチでのご支援、そして試合当日の熱いご声援に対しましても、心からお礼を申し上げます。

さて、この度第71回国民体育大会関東ブロック大会サッカー競技が、８月13日（土）から14日（日）の２日間、山梨県内において開催されました。結果は１回戦で群馬県と対戦し０対３で敗戦を喫しました。皆様のご期待を裏切る結果となりましたことを、プロジェクトチームの責任者として深謝いたします。

≪チーム構成≫

普段、我々が主戦場とする日本フットボールリーグ（JFL）で主力出場しているメンバーは、新加入選手が半数以上を占めています。選手選考の段階で他県出場歴ありなども含め、参加資格を持つ選手がかなり制限されてしまいました。加え、主力選手の直前の怪我・私情による退団等で登録選手が１枠不足し16名の構成となりました。登録選手16名のうち栃木県出身選手は４名でした。

対する群馬県は地域リーグに属するtonan前橋を中心に構成するも、ポジションの中枢にＪ２ザスパクサツ群馬に所属する選手をエントリーしていました。また注目なのが「ふるさと選手制度」を活用し、元Ｊリーグ経験者を呼び戻す。それと並行し県外の有望な若手大学生をチームの一員に迎え入れるなど、県としての強化体制が見てとれました。

≪ゲームコンセプトとゲーム内容≫

今大会でのレギュレーションの特徴は、35分ハーフでの短時間決戦であること。その為、まずは失点を避けるためのセーフティーなプレーが心理に作用する傾向にあった。群馬県は自陣でリスクを最小限に抑えるためにロングボールを多用してきた。それに対しDFラインとGKは常に「準備・予測」することをプレーに求めた。また、MFにはセカンドボールを拾う意識を持つこと、FWにはボールフォルダーに圧力を掛けることなど幾つかのリスクマネジメントで対応した。全体をコンパクトにしスペースとフリーマンを作らない・与えないことを共通認識として統一した。ゲーム展開としてはお互いに手堅い立ち上がりになり膠着状態が続いた。しかし幾度か相手FWのスピードを持ったストロングな選手が、DFラインの背後に抜け出す場面を作っていた。前半終了間際の時間帯にDFライン背後へのボール処理を誤り、抜け出した相手FWがGKの頭上を越すループシュートで失点。焦りからかその１分後にはオウンゴールで失点を重ね２点のビハインドを負ってしまう。その後は主導権を握るも相手の守備網を崩せず、逆にカウンターをくらい失点で万事休す。大事な時間帯で失点したことが勝敗を大きく分けた。

≪最後に≫

今大会に望む意気込みとして「チーム栃木」の一員とし、本戦出場を必勝に闘いました。その為に日常の風景を変えることからトライし、食生活・体質改善からもアプローチしました。ご協力頂いた栄養士の鈴木先生・技術力向上担当の高橋様に感謝申し上げます。またチーム強化のため、普段トレーニング会場を転々とする我々に会場をご提供して頂きました栃木市陸上競技場関係者様・鹿沼市自然の森公園関係者様など多くのご協力の元に素晴らしい環境でトレーニングに取り組めましたことを感謝いたします。また、週に一度だけ夕方16時という我々にとっては早い時間帯にトレーニングが出来る様、尽力してくださった関係者各位の皆様にも感謝いたします。試合当日は70分のゲームでしたが、その為に多くの方が支え・見守って頂いたことに改めて気づかされた大会でした。略儀ながら書中をもちましたお礼とさせていただきます。

2016年度　（公社）栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名（敬称略）　2016年7月29日現在

奥澤　浩

安達　賢二

FCグランディール宇都宮

小山西高校サッカー部保護者会

揚茜クラブ

真岡サッカークラブ

石﨑　洋子

宇都宮大学サッカー部OB会

野木SSS

今市第三カルナヴァル

鹿沼フットボールクラブOB会

(株)極東体育施設

円印刷株式会社

FC西那須野21アストロ

ユー福祉タクシー

人と自然が調和した街づくり目指す

鈴運メンテック株式会社

○一般廃棄物の収集運搬
○産業廃棄物の収集運搬
○重機･一般貨物の運搬
○倉庫の賃貸及び保管管理
○高速道路の維持管理

〒320-0857
宇都宮市鶴田2丁目2番10号
TEL 028-648-6241（代）
FAX 028-648-8318
http://www.suzuun.co.jp

オフィシャルサプライヤー
ミズノ株式会社

■ 発行　公益社団法人 栃木県サッカー協会
■ 編集　公益社団法人 栃木県サッカー協会 記録広報委員会
■ 発行責任者　石﨑忠利、村上富士夫
■ 印刷所　円印刷株式会社